

平成29年6月15日発行 ライセンスメイト 第1巻246号通巻572号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

台湾維新元年

日台の生命の絆

孫文生誕150年



成功大学のシンボル

昭和天皇(裕仁皇太子)御手植え榕樹

原台湾第二歩兵連隊本部の営庭に昭和天皇が皇太子時代に台湾へ行啓のときに御手植えされたガジュマル。やがて終戦を迎えて、第二歩兵連隊は成功大学に生まれ変わった。94年の歳月、ガジュマルは成長を続け大きく枝を広げ、今や戦友会の心の絆となり、成功大学のシンボルとなっている。

発行所 株式会社 日本教育開発

報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」を知っていただこうと、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所／株式会社日本教育開発)

- ◎この本は訪台時にご接待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしい装丁でないといけません。中華民国政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。
- ◎国内に目を転じれば、団員の皆様のご縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。
- ◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないと いけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様に、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。
- ◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた18年でした。
- ◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。
- ◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。
- ◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第18次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)
- ◎「公的支援のない公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、紙面をご覧いただくことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

- 1 報告集(ライセンスメイト)について
- 2 永石辰郎顧問を偲ぶ
- 3 台湾慰霊訪問団特集に寄せて
- 5 旅の目的
- 9 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 13 団長あいさつ
- 15 祭文／台湾訪問の旅 訪台者一覧
- 17 一目でわかる訪問先・交歓先
- 19 訪問先・交歓先一覧(第1次～第17次)
- 23 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 26 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 35 ご支援戴いた皆様
- 37 第19次台湾慰霊訪問の旅・
参加者募集のお知らせ
- 38 知られざる「神蹟の遺跡」
- 39 中華民国外交部表敬訪問
- 41 結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会
- 43 台湾特別講演会



ありし日の永石辰郎顧問



追悼の辞を述べる小菅団長

永石辰郎顧問を偲ぶ

追悼の辞

私たち訪問団が永石様と初めてお逢いしたのは平成二十二年十一月の第十二次の台湾慰霊訪問の旅でした。陸軍航空士官学校五十八期の同期生、日高誠氏に同伴されましたが、大東亜戦争に台湾の御英霊の皆様と共に戦地に赴かれた先輩諸氏のご参加は、私たち訪問団の宝とっていいものでした。その後、十五次の訪問まで四年連続ご一緒できました事は私の生涯にとり、この上ない思い出となっています。

平成二十三年、訪問団の顧問をお願いした折には、快くお引き受けして下さい、以後大所高所の見地から私たちの活動を補佐して下さいました。訪問団の事務局に掛け軸をご持参下さった事、宝覺寺の慰霊祭後の現地放送局の取材に堂々に対応されていたお姿、保安堂の皆様が靖國参拝された折には、ご療養中にも拘らずお出迎えに馳せ参じられた事、現地の歓迎会でお酒が入ると、両手にお皿をもって踊りにうち興じられた思い出は、走馬灯のように私の脳裡を駆け巡っています。

今、私たちは偉大な柱を失いました。台湾各地での慰霊式で顧問が話された貴重な戦争体験談は、もう聞くことができません。私たちをなごませて下さったあの「かに踊り」はもう見ることはできません。しかし、顧問の御霊は今や天の上を駆け巡り、戦争体験者として日台の魂の交流を霊界で司どる訪問団の守護神として、私たちの行く末を見守っておられます。私たちは、第十二次で初めて台湾を訪問された時に顧問が体験された「心をゆさぶられる様な感動」を、末永く保ち続ける訪問団でありたいと心する次第です。顧問のご遺志を受け継ぎ、日台百二十一年の交流の先駆けとして、今後もこの務めを果たしてゆく所存です。

どうぞ安らかに眠りください。 合掌

平成二八年十月八日
日華(台)親善友好慰霊訪問団
団長 小菅 亥三郎



「台湾慰霊訪問団特集」

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 ^{えびす} 戎 ^{よし} 義 ^{とし} 俊

はじめに、最近の台湾と日本をめぐる4つの動きをご紹介します。

一、台湾国民が行きたい海外旅行先の第1位は日本、海外好感度調査では7割以上が日本と回答。～2016年台湾外交部(外務省)世論調査による～

二、台日の観光往来が2016年初めて600万人を突破。

三、2017年1月4日、「財団法人交流協会」(1972年の断交以来、日本の大使館に相等する駐在機関が使用してきた名称)が「日本台湾交流協会」へと名称変更。

四、2017年5月17日、台湾の台日交流担当機関の「亞東關係協會」が「台湾日本關係協會」へと名称変更。

私が着任した2013年は、人的交流が初めて350万人に達した年でした。年々その数は増え続け、2016年には過去最多の600万人もの往来が実現しました。正式な国交を持つ国との間でも600万人に達するところはありません。訪日の台湾人は昨年429万人、ここ3年で50万人ずつ増加しており、人口2,300万人に占める比率から考えても、いかに両国が深くつながっているか、世界一良好な関係にあるかがお分かりいただけると思います。また今回、台湾と日本とを結ぶ窓口機関の名称に「台湾」「日本」双方の文字が入ったことは大変意義深いものであり、単なる改名を超えた画期的なものです。これは今後、台湾が国交を持たない国とも、お互いの国名を呼び合うようになるなどの好影響を与えるものと確信しています。

に寄せて



このように良好な関係を保つことができるのも、お互いに好感を持ち、お互いに信頼し合っている証(あかし)であると心から嬉しく思います。

小菅団長率いる「日華(台)親善友好慰霊訪問団」は平成11年の結成以来18年にわたり、毎年欠かすことなく我が台湾を訪問され友好親善交流をひとつひとつ積み重ねてこられ、信頼関係を築いてこられました。また、台湾においての交流のみならず日頃から我が台湾への揺るぎないご支持をいただき、紙面をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。

台湾では昨年「湾生回家」というドキュメンタリー映画が上映され、大ヒットし大きな反響を呼びました。「湾生」とは、戦前台湾で生まれ育った日本人のことで、台湾で生まれ育った日本の老人が60年ぶりに懐かしい台湾の故里を尋ねるというスト

ーリーです。日本の敗戦後、台湾にいる日本人は台湾生まれであっても強制的に日本に送還され、その数は軍人・軍属合わせて50万人近くにのぼり、その内「湾生」は約20万人、その中の約2万人が九州人といわれています。日本統治時代に台湾にわたった九州人は、他の日本人と同様「技師」としてインフラ整備に関わり、「医師」として医療・衛生に従事し、「教師」として教育に携わり、台湾の近代化に貢献されました。彼らは台湾で結婚し、子供をもうけ、その子供たちは出生から青春期までを台湾で過ごし戦後、彼らが日本に帰国してからも、彼らの記憶の中にはいつも「台湾」という大きな信念があり、その魂は永遠に消えてなくなることはないのです。台湾の「日本語世代」と九州の「湾生」とは、ご高齢となられた今でも交流を続けておられます。歴史において台湾と九州とは非常

に深く関わっているのです。

これまでの日台関係は「日本語世代」「湾生」に頼っている部分もありましたが、これからは次世代を担う若者に友好のバトンを渡さなければなりません。現在の良好な関係を基礎として、若い世代、特に青少年には、修学旅行に代表されるような体験や交流を通じてお互いを知り確かな友情を育み、未来の良好な関係の礎としていただきたいと思います。

日華(台)親善友好慰霊訪問団の皆様におかれましては、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日華(台)親善友好慰霊訪問団のますますのご発展と、小菅団長はじめ団員の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。



「大東亜戦争で散華された 台湾同胞3万3千余柱の 英霊顕彰と慰霊祭参列」

- | | |
|-----------|---|
| 11月22日(火) | 樹林／海明禪寺・富田直亮將軍墓所(写真①②) |
| 11月23日(水) | 台南／飛虎將軍廟(写真③④)
屏東／東龍宮(写真⑤⑥) |
| 11月24日(木) | 高雄／保安堂(写真⑦)
台南／八田與一ご夫妻墓所(「殉工碑」含む)(⑧⑨)
嘉義／富安宮(写真⑩) |
| 11月25日(金) | 台中／宝覺寺(写真⑪⑫)
イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所)
ロ.英魂觀音亭と「靈安故郷」の慰霊碑 |
| 11月26日(土) | 新竹／濟化宮(写真⑬⑭)
士林／芝山公園(写真⑮⑯)
イ.六士先生墓所
ロ.学務官僚遭難之碑 |



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯



「領台時代の魂を継承する 現地台湾人との家族交流・兄弟交流」

- 11月22日(火) 台北／中華民国外交部(蔡明耀亞東關係協会秘書長)表敬訪問(写真①②)
台北／黄文雄先生による歓迎の夕食会／紫都(写真③④)
- 11月23日(水) 台南／成功大学見学(写真⑤⑥)
イ.昭和天皇(裕仁皇太子)御手植え榕樹
ロ.原臺歩兵第2連隊本部、兵舎跡、衛戍病院跡
高雄／黄明山・葉美麗ご夫妻による招待夕食会／
海慶澎湖海産(写真⑦⑧)
- 11月24日(木) 台中／台湾台日海交會(林余立會長)主催の懇親会／
香蕉新樂園餐廳(写真⑨⑩)
- 11月25日(金) 台中／台中国家歌劇院見学(写真⑪)
台中／王春茂・憑英鳳ご夫妻による歓迎昼食会／
仙園海鮮会館(写真⑫⑬⑭)
- 11月26日(水) 台北／中華民國總統府見学(写真⑮⑯)
イ.中華民國總統府
ロ.二二八記念公園



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



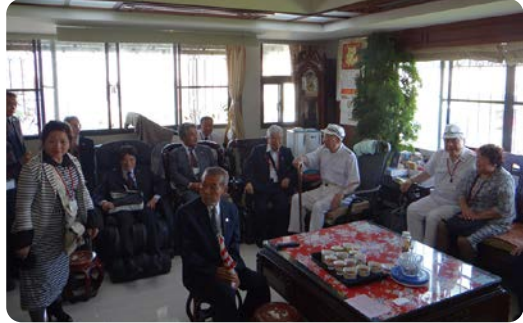
⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年	3月 6日	第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名) ※「結団式・解団式」含む...1	11月14日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(八仙閣15名)...44
	5月 15日	ライセンスメイトにて連載開始...2	11月23日	第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)...45
	11月 25日	慰霊祭参加(台中・宝覺寺、11.24~11.26、2名)...3	12月11日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店1名)...46
平成12年	11月 23日	第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名) ※「結団式・解団式」含む...4	平成18年	1月 3日 第2回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄 グランドホテル4名)...47
平成13年	5月 28日	読売新聞に一面広告掲載...5	1月 8日	第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)... 48
	6月 5日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...6	1月28日	第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名) ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる...49
	10月 13日	第3次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店60名)...7	3月22日	福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしい~現代に生 きる教育勅語・軍人勅諭」卓話:小菅玄三郎 随行:川添(ホ テル南風樓)...8
	11月 8日	二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会 「世界一の親日国・台湾の話」講話:小菅玄三郎 随行:古川 (ホテル南風樓)...8		
	11月 23日	第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...9		
	12月 22日	第3次訪問団解団式・報告会(平和樓本店50名)...10		
平成14年	4月 1日	訪問団ホームページ開設...11	5月14日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...51
	6月 6日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...12	5月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...52
	6月 8日	許國雄先生告別式参列(高雄・徳生長老教会、6.7~6.9、1 名)...13	6月 3日	第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス 天神 156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日~これから の台・中・日・米関係の徹底分析」...53
	9月 10日	産経新聞に見聞広告掲載...14	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...54
	10月 21日	全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、台湾への修 学旅行先選定を呼びかける ※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学まで 3,389校...15	10月 1日	第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、特別篇第5弾、 10.1、1回)...55
	11月 2日	第4次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店73名)...16	10月21日	旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)...56
	11月 6日	台湾中日海交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晩餐会(台湾 18名)...17	11月13日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕記念 祝宴参加(八仙閣1名)...57
	11月 23日	第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...18	11月20日	役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)...58
平成15年	1月 24日	第4次訪問団解団式・報告会(平和樓本店48名)...19	11月23日	第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...59
	4月 26日	台湾在日福岡留学生会・新入生歓迎会参加(八仙閣1名)... 20	平成19年	1月 3日 第3回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄 グランドホテル4名)...60
	6月 6日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...21	1月 7日	第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)...61
	6月 7日	第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス天神・講 演会134名/懇親会36名) 山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に根づく日 本精神~一六士先生を中心に」...22	1月27日	第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)...62
	8月 6日	福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ね て」卓話:小菅玄三郎 随行:古川(KKRホテル博多)...23	3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...63
	11月 8日	第5次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...24	5月20日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣2名)... 64
	11月 23日	第5次訪問旅行(11.23~11.26、23名)...25	6月 2日	第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅 威~一日台はいかに対応すべきか?」...65
平成16年	1月 24日	第5次訪問団解団式・報告会(平和樓本店35名)...26	6月13日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣2名)...66
	2月 22日	第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、2.22~3.28、 6回)...27	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)...67
	4月 29日	台中市日本文化協会(鍾子桓氏以下3名)来訪...28	10月18日	REPの会例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」 卓話:小菅玄三郎 随行:林・吉村(パノナサロン)...68
	5月 23日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1名)... 29	10月27日	旅程説明会(平和樓本店19名) 第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)...69
	6月 5日	第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス 天神83名/懇親会 花万葉54名) 張國興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状~総統選 挙を中心に」...30	11月23日	第9次訪問旅行(11.23~11.26、25名)...70
	6月 9日	福岡日華親善協会 定時総会参加(平和樓本店1名)...31	12月22日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店3名)...71
	6月20日	沈・呉ご夫妻来訪...32	平成20年	1月 3日 第4回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄 グランドホテル4名)...72
	9月 9日	台湾福祉実習団(陳徹氏以下8名)来訪...33	1月25日	九州建設機械器具リース業協会賀詞交歓会「海の彼方の ニッポンを訪ねて」 講話:小菅玄三郎 随行:黄(八仙閣)...73
	11月12日	福岡日華親善協会孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(平和樓本店1名)...34	1月26日	第9次訪問団解団式・報告会(平和樓本店51名)...74
	11月22日	第6次訪問団結団式・壮行会(アーバン・オフィス天神6名)... 35	3月 9日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9~4.13、6 回)...75
	11月23日	第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)...36	3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...76
	12月26日	第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、12.26~ H.17.1.2、2回)...37	6月 1日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)...77
平成17年	1月 3日	第1回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄 グランドホテル4名)...38	6月 8日	第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演 会123名/懇親会63名) 黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」 清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質を知 ろう~新「教育勅語」のすめ」...78
	1月22日	第6次訪問団解団式・報告会(平和樓本店30名)...39	6月17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(全日空ホテル1名)...79
	6月 4日	第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テルラホール100 名/懇親会 チャタムダイニング70名) 黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大罪~中国 が「反日・仇日」に転じた本当の理由」...40	9月 3日	台北駐福岡経済文化辦事處 周頌頌處長主催懇親会(平和 樓本店7名)...80
	6月10日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...41	10月 9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...81
	10月22日	第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)...42	10月25日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名) ※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる...82
平成17年	11月 5日	何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)...43		

平成20年11月22日	第10次訪問旅行(11.22~11.26、31名) (A班11.22~26 19名、B班11.23~26、12名)...83	平成22年10月23日	旅程説明会(平和樓本店21名) 第12次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店63名)...120
12月14日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...84	11月21日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店2名)...121
平成21年 1月 3日	第5回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/松風4名)...85	11月22日	第12次訪問旅行(11.22~11.26、46名)(A班11.22~26 35名、B班11.24~26 11名)...122
1月24日	第10次訪問団結団式・報告会(平和樓本店64名)...86	平成23年 1月 3日	第7回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/西鉄グランドホテル4名)...123
2月22日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22~3.29、6回)...87	1月22日	第12次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...124
3月 9日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店8名)...88	2月23日	福岡西ライオンクラブ 例会「教育勸語・軍人勸諭」 卓話:小菅亥三郎 随行:高山(西鉄グランドホテル)...125
3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...89	3月15日	台北駐那覇經濟文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15~3.16、4名)...126
5月24日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店3名)...90	4月 3日	第10回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3~5.8、6回)...127
6月 6日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...91	4月23日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...128
6月 7日	第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会170名/懇親会69名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来—台湾と中国の最終戦争は避けられるのか?」柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳—今、甦る台湾水力発電の父」...92	5月28日	産経新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載...129
6月14日	産経新聞で「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載...93	6月 4日	第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会159名/懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日—中国の「千船保釣」を打ち砕こう!」...130
9月 7日	李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)...94	6月12日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...131
9月10日	李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)...95	6月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...132
9月30日	産経新聞で第2回目の「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載...96	6月24日	産経新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載...133
10月31日	産経新聞で第3回目の「NHKは台湾人ならびに三万三千余柱の元日本兵台湾人戦没者に謝罪を!」意見広告掲載...97	7月 3日	中華民国建国100年「聖火リレー」福岡到着記念撮影会参加(福岡市南公園2名)...134
11月 1日	旅程説明会(平和樓本店20名) 第11次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...98	7月 6日	あすなる会 例会「台湾はなぜ世界一の親日国なのか〜日華(台)親善友好慰霊訪問団団長12年の体験から」卓話:小菅亥三郎 随行:池田・黄・五郎丸・高山(ハーベストビル会議室)...135
11月21日	産経新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載...99	7月24日	産経新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載...136
11月22日	第11次訪問旅行(11.22~11.26、30名)...100	8月21日	産経新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載...137
11月29日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(八仙閣3名)...101	9月13日	福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行〜台湾はどういう国なのか」講話:黄楷棠 随行:池田(視聴覚教室)...138
12月20日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...102	9月29日	産経新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載...139
平成22年 1月 3日	第6回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/松風4名)...103	10月 7日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...140
1月 3日	第8回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、年末年始篇第9弾、1.3、1回)...104	10月17日	産経新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載...141
1月23日	第11次訪問団結団式・報告会(平和樓本店61名)...105	10月22日	旅程説明会(平和樓本店26名) 第13次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店67名)...142
1月30日	日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流—11年の活動を振り返って」 講話:小菅亥三郎 随行:黄・五郎丸(平和樓本店)...106	11月20日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店2名)...143
2月21日	産経新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載...107	11月21日	産経新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載...144
3月 7日	第9回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7~4.11、6回)...108	11月21日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長主催懇親会(鴻臚6名)...145
3月10日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(稚加栄、4名)...109	11月22日	第13次訪問旅行(11.22~11.26、45名)(A班11.22~26 38名、B班11.24~26 7名)...146
3月13日	林溪和先生告別式参列(台中・三一基督長老教会、3.13~3.14、2名)...110	12月25日	産経新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載...147
3月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...111	平成24年 1月 3日	第8回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/松風4名)...148
3月21日	産経新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会の態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載...112	1月 6日	中華民国建国満100年祝賀式典参加(ホテルオークラ1名)...149
5月16日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...113	1月19日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長謝恩新年会(千羽鶴6名)...150
6月 5日	第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会172名/懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎令孫・画家)黄文雄先生(文明史家) 「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人—明石元二郎台湾総督の生涯」...114	1月21日	第13次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...151
6月27日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長送別会(団長宅12名)...115	1月26日	産経新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載...152
8月 4日	産経新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起す」意見広告掲載...116	2月22日	産経新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠にめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載...153
9月25日	日本会議福岡中央支部 西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体—台湾防衛は英霊との約束」 講話:小菅亥三郎 随行:原田・池田・黄(アーバン・オフィス天神)...117	3月25日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...154
10月 8日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...118	4月 1日	第11回台湾シリーズ放送(スタジオ日本日曜討論、4.1~5.6、6回)...155
10月14日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長歓迎会(松幸26名)...119	4月29日	産経新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載...156
		5月13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...157

平成24年	5月16日	台湾総統就任記念茶話会参加(平和樓本店3名)...158			
	6月1日	産経新聞で『恥づかしい』と『感謝』の訪問意見広告掲載...159	平成25年	6月30日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...194
	6月2日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉13名)...160		7月18日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(Sol9名)...195
	6月3日	第10回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会167名/懇親会79名)基調講演:黄文雄先生(文史史家)「日本と台湾の過去・現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」/パネルディスカッション:黄文雄先生(文史史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「東日本大震災から見た日台の生命の絆～台湾国民は何故世界のご支援をして下さったのか」...161		10月4日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 12名)...196
	6月7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...162		10月12日	旅程説明会(平和樓本店 9名) 第15次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 69名)...197
	6月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...163		10月20日	台日文化交流会 許世楷先生講演会参加(西南学院大学コミュニティセンター 1名)...198
	7月15日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(1)」意見広告掲載...164		11月1日	中華民國(台湾)福岡領事館をお祝いする会(花万 6名)...199
	7月16日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(2)」意見広告掲載...165		11月10日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店 5名)...200
	10月5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ5名) ※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参加者とする...166	平成26年	11月22日	第15次訪問旅行(11.22～11.26、32名)(A班11.22～26 28名、B班11.24～26 4名)...201
	10月6日	台湾支部事務局長(黄楷榮)婚約式参列(高雄・饌巴黎大飯店、10.6～10.8、2名)...167		12月29日	高雄市鳳山紅毛港保安堂安座式典参加(12.28～12.30 3名)...202
	10月13日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)...168	1月3日		第10回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/松風4名)...203
	10月26日	台湾支部事務局長(黄楷榮)結婚式参列(基隆・豪鼎飯店、10.26～10.28、2名)...169	1月25日		台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催送別会(處長公邸2名)...204
	11月8日	中華民國(台湾)領事館をお祝いする会(江藤家、4名)...170	1月25日		第15次訪問団結団式・報告会(平和樓本店63名)...205
	11月18日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...171	2月23日		第14回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.23～3.30、6回)...206
	11月22日	第14次訪問旅行(11.22～11.26、38名)(A班11.22～26 32名、B班11.24～26 6名)...172	3月23日		東龍宮(石羅界寺)以下6名)歓迎晩餐会(千羽鶴8名)...207
	12月23日	第12回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、年末年始篇第12弾、12.23、1回)...173	3月26日		第12回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神17名)...208
平成25年	1月3日	第9回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/松風4名)...174	3月27日		中華民國(台湾)領事館をお祝いする会(花万3名)...209
	1月26日	第14次訪問団結団式・報告会(平和樓本店73名)...175	3月29日		富安宮新廟落成慶法要参列(嘉義・富安宮1名)...210
	2月23日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長送別会(千羽鶴13名)...176	4月22日		第12回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神23名)...211
	2月24日	第13回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.24～3.31、6回)...177	4月27日		台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣3名)...212
	3月6日	福岡日華親善協会 台北駐日経済文化代表處 沈斯淳代表歓迎宴参加(ホテル日航福岡1名)...178	5月18日		産経新聞に「第12回台湾特別講演会」全面広告掲載...213
	3月20日	日台交流教育会 創立40周年記念懇親会参加(アルカディア市ヶ谷1名)...179	5月28日		第12回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 25名)...214
	3月26日	第11回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神15名)...180	6月7日		台湾支部事務局長歓迎晩餐会(海幸 6名)...215
	4月23日	第11回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神17名)...181	6月8日		第12回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会301名/交流会149名) 基調講演:黄文雄先生(文史史家)「日本人が台湾に遺した武士道精神～台湾と日本を結び日本精神」/パネルディスカッション:私たちは日本を取り戻す!黄文雄先生(文史史家)「私たち原日本人は大切なものを忘れてしまった!」:施光恒先生(九州大学大学院准教授)「台湾の中のニッポン～日本人が取り戻すべき心とは!」:柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「台湾人戦犯死没者の遺書について」...216
	5月28日	第11回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 20名)...182	6月15日		ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...217
	6月1日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉 10名)...183	6月17日		福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣 1名)...218
	6月2日	第11回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会195名/懇親会134名) 基調講演:黄文雄先生(文史史家)「思想的背景から見た日台の魂の交流～日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る」/パネルディスカッション:黄文雄先生(文史史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「今後の日本と台湾の真の交流について～私たちがめざすべき日台の関係」...184	6月21日		第12回台湾特別講演会 第4回実行委員会・慰労会(アーバン・オフィス天神 26名/花万葉 30名)...219
	6月3日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)美祢市表敬訪問...185	8月16日		胡順来先生告別式参列(台中・篤行基督長老教会、8.15～8.17、2名)...220
	6月4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)山口市表敬訪問...186	10月7日		台湾双十節式典参加(グランドハイアット 6名)...221
	6月4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)慰労会(団長宅 11名)...187	10月11日		旅程説明会(平和樓本店 22名) 第16次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 71名)...222
	6月15日	第11回台湾特別講演会 第4回実行委員会・慰労会(アーバン・オフィス天神 22名/木曾路21名)...188	10月12日		台日文化交流会 桜井真先生講演会参加(福岡国際ホール 1名)...223
	6月15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...189	11月14日		台北駐福岡経済文化辦事處主催 映画「KANO」試写会(T・ジョイ博多 8名)...224
	6月16日	ニュー有楽会お別れ総会参加(平和樓本店 1名)...190	11月22日		第16次訪問旅行(11.22～11.26、48名)(A班11.22～26 45名、B班11.24～26 3名)...225
	6月21日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長歓迎会(千羽鶴 18名)...191	11月24日		第16次訪問団高雄市府(李永得副市長、張乃千社會局長)表敬訪問※高雄市爆発事故復興支援義援金(619000円、台湾元3000元/122名)...226
	6月29日	林徳華先生告別式参列(台中・林家宅、6.28～6.30、3名)...192	12月6日		台湾在日福岡留学生会忘年会参加(八仙閣 5名)...227
	6月29日	御創立記念日献詠披露式出席(靖國神社、6.29～6.30、1名)...193	12月19日		台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(タワーバントハウス 2名)...228
			平成27年	1月13日	第11回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護国神社/千羽鶴 4名)...229
				1月24日	第16次訪問団結団式・報告会(平和樓本店 82名)...230
				2月22日	第15回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.22～3.29、6回)...231

平成27年	3月25日	第13回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 22名/懇親会13名)...232	平成28年	5月14日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会(八仙閣22名)...264
	4月13日	山口県美祢市総合観光部(藤沢和昭部長以下7名) 来訪...233		5月18日	第14回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 19名/懇親会 10名)...265
	4月22日	第13回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 17名/懇親会7名)...234		5月27日	台湾台日海交會による熊本地震被害再建支援捐金(251,000円)を産経新聞厚生文化事業団に寄託 掲載記事:産経新聞5月28日、6月21日...266
	4月26日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(八仙閣 3名)...235		5月28日	産経新聞に一面広告掲載...267
	5月20日	第13回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名/懇親会 9名)...236		5月29日	海原会主催豫科練戦没者慰霊祭参列(陸上自衛隊武器学校内 雄翔園 1名)...268
	5月23日	産経新聞に一面広告掲載...237		6月 2日	第14回台湾特別講演会 第5回実行委員会(アーバン・オフィス天神 10名)...269
	6月10日	第13回台湾特別講演会 実行委員会幹事会(アーバン・オフィス天神 6名)...238		6月 5日	第14回台湾特別講演会・交流会(ソラリア西鉄ホテル 講演会298人/交流会 151人) 基調講演 黄文雄先生(文明史家)「台湾総統選(戦)が切り拓く世界新秩序ー 日本・米国・台湾の新しい展開」/パネルディスカッション 「戦後体制から躍り出た台湾人-私たちはどう向き合うべきか」:黄文雄先生(文明史家)、「台湾と世界の未来」: 施光恒先生(九州大学大学院准教授)、「言語空間の奪還が創造した偉大な地平」:柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「誠心(まごころ)で台湾人を団結させた若き指導者、蔡英文」 掲載記事:産経新聞6月6日、フクニチ住宅新聞11月4日...270
	6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...239		6月15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...271
	6月16日	沖縄県中部倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」卓話:小菅玄三郎 随行:なし(プラザハウス)...240 台北駐那覇経済文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問(6.15~6.16 2名)...241		7月 2日	第14回台湾特別講演会 第6回実行委員会・慰労会(花万葉23名/24名)...272
	6月17日	第13回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 25名/懇親会 8名)...242		7月 8日	台北駐那覇経済文化辦事處 蘇啓誠處長表敬訪問(7.8~7.10 1名)...273
	6月21日	第13回台湾特別講演会・交流会(西鉄グランドホテル 講演会338名/交流会141名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「太陽花學生運動 統一地方選 そして総統選へー台湾の若者が示した勇氣と献身」/パネルディスカッション「終戦70年と私たちの課題ー『KANO』を制作した台湾の言語空間」:黄文雄先生(文明史家)「ネット世代に活路を見出す台湾の言語空間ー華夷秩序からの脱却」:施光恒先生(九州大学大学院准教授)「想像力の回復に向けて」:柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「領台初期の台湾語教育とその影響」...243		8月23日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催懇親会(好記 7名)...274
	7月11日	産経新聞に一面広告掲載(「福岡宣言」発表)...244		10月 6日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ 16名)...275
	7月11日	第13回台湾特別講演会 第5回実行委員会・慰労会(西鉄グランドホテル 23名)...245		10月 8日	第18次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 169名) ・旅程説明会23名 ・記念講話:戎義俊先生(台北駐福岡経済文化辦事處處長)「台湾の歴史教育と日台関係」81名 ・結団式・壮行会 65名 ※「永石辰郎顧問を偲ぶ会」兼ねる 掲載記事:産経新聞10月9日、フクニチ住宅新聞12月2日...276
	8月 8日	台日文化交流会 排湾古謡コンサート(西南学院大学コミュニティセンター 1名)...246		11月22日	第18次訪問旅行(11.22~11.26、50名)(A班11.22~26 44名、B班11.24~26 6名)...277
	9月14日	保安堂靖國参拝団(洪海上氏以下32名)お出迎え(靖國神社 11名/明治神宮8名)...247		12月10日	台湾在日福岡留学生会 忘年会(ホテルクリオコート博多 2名)...278
	10月 9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ 10名)...248		12月21日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(ヴェガ2名)...279
	10月10日	旅程説明会(平和樓本店 16名) 第17次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 93名) ※「沖縄支部設立」兼ねる 掲載記事:産経新聞10月11日、フクニチ11月27日...249	平成29年	1月21日	第18次訪問団解団式・報告会(平和樓本店 84名) ・記念講話:戎義俊先生(台北駐福岡経済文化辦事處處長)「蔡英文新政権を語る」60名 ・帰朝報告会 59名 ・新年会 64名 掲載記事:産経新聞1月22日、フクニチ住宅新聞3月10日、臺灣新聞2月6日...280
	10月31日	台日文化交流協会 桜井真先生講演会参加(福岡市民福祉プラザ 2名)...250		2月25日	第15回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 16名/懇親会 16名)...281
	11月18日	日本道経会福岡支部 例会「海の彼方のニッポンを訪ねてーなぜいま「軍人勸諭」か」 卓話:小菅玄三郎 随行:なし(八仙閣 1名)...251		3月18日	第15回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 15名/懇親会 12名)...282
	11月22日	第17次訪問旅行(11.22~11.26、32名)(A班11.22~26 30名、B班11.24~26 2名)...252		4月20日	山口県美祢市観光商工部(西田良平部長以下6名)来訪...283
	12月13日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(ヒルトンシーホーク 3名)...253		4月22日	第15回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 23名/懇親会 8名)...284
	12月14日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(松風 4名)...254		4月28日	東龍宮増建拜庭完竣暨田中將軍紀念館啓用祭典 参列(屏東・東龍宮、4.27~4.30 1名)...285
	12月25日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催忘年会(タワーイベントハウス 2名)...255		5月14日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(アークホテルロイヤル福岡天神 2名)...286
平成28年	1月 5日	第12回台湾人留学生会初詣おせち会(水鏡天満宮/花万葉10名)...256		5月18日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(桃林3名)...287
	1月23日	第17次訪問団解団式・報告会(平和樓本店 72名) ※「永田昌巳顧問を偲ぶ会」兼ねる 掲載記事:産経新聞1月24日、フクニチ住宅新聞2月5日、日本時事評論2月19日...257		5月27日	第15回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 19名/懇親会 9名)...288
	2月17日	第14回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神 9名)...258		5月28日	産経新聞に一面広告掲載...289 東海新報に一面広告掲載...290
	2月21日	第16回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.21~3.27、6回)...259			
	3月16日	第14回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神 18名/懇親会 11名)...260			
	4月 7日	山口県美祢市総合観光部(古川和則所長以下2名)来訪...261			
	4月23日	第14回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 16名/懇親会 8名)...262			
	4月26日	黄明山支部長台南市政府(鄭俊傑社会局秘書室主任)表敬訪問※台南市地震被害復興支援義損金(363000円/88名)...263			



台湾という国家との向き合い

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

台湾は独立した国

世の中に存在するものには何につけ定義がありますが、私たち日本人が南の隣国、台湾を考える時、国家という定義をあてはめようとしない人が多いことに気がきます。原因の第1は教育にあります。そして第2はマスメディアにあります。つまり、政府と報道に起因するこの現象は実に珍奇な現実を生み出しています。

(イ)国境に囲まれた国土があること、そしてその国境は隣接する他国の認知を得ていること。

(ロ)広狭は別にして国土の中で健全な経済活動が営まれ国民が恙なく暮らしていること。

(ハ)国会という議決機関を持ち、憲法典を頂点とする法体系が完備していること。

(ニ)国軍があり、国の護りに従事していること。

国家の定義の主要なものを列記したが、この条件を満たしていれば人口819人のバチカンや面積が僅か61.2km²(福岡市でいえば東区に相当)しかないサンマリノですら市国や共和国として認知され連合

「国」の一員に加えられています。

しかし、目を台湾に転じてみると十分すぎるほどこれらの条件を満たしているにも拘らず、何故か「国家」として認められていません。では、国家の認証を決めるのはどこでしょうか。それは連合国です。日本では「国際連合」として誤訳された状態でまかり通っていますが、第2次大戦の戦勝国側の政府の組合と考えればもっと判りやすいと思います。

日本や独逸や伊太利の枢軸国に勝利した米英蘭蘇の連合国が自分たちの組合に加入したか否かをまるで国家の定義に加えてしまったかの観がします。

ある企業が商工会議所や経済団体に加入していないから企業でないというに等しい乱暴な考え方ではないでしょうか。

近隣諸国を問う

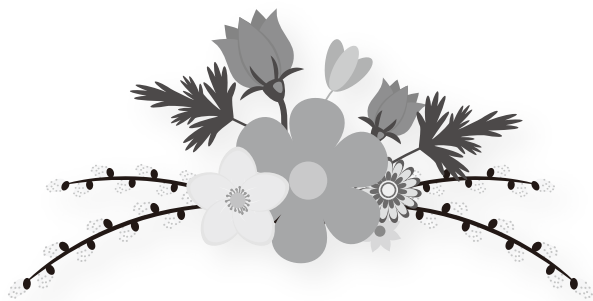
近隣諸国を見てみましょう。お隣の韓国ですが、分断された形のまま戦後72年を経た今日に至るも統一の兆しはありません。おまけに北朝鮮には朝鮮労働党に忠誠を誓う軍事組織はあっても国軍は存在しませ

ん。それは丁度、一党独裁の中国共産党が全国人民代表大会會議(全人代)をもって「国会」と強弁し、政治ごっこをしている姿と全くかわりません。すなわち、この3ヶ国の方がはるかに国家からほど遠い存在であることがお判りいただけると思います。

グローバルスタンダードというイデオロギー

巷には政治用語でいえばインターナショナルリズム(国際主義)、経済用語でいえばグローバリズム(地球主義)なる言葉が頻繁に登場しますが、これも非常に怪しいものです。現在の地球上に存在する最高位の権威は、そして権限は「主権国家」であり「国家主権」です。つまりこれ以上のものはないということです。わが国の領土で発生した事件の解決を隣国に依頼しても埒があかないのはそのいい例です。

今から135年前の明治15年1月4日に下賜された軍人勅諭には「抑國家を保護し國權を維持するは兵力に在れば兵力の消長は是國運の盛衰なることを辨へ世論に惑はず政治に拘らず只一途に己か本分



方を問う

の忠節を守り義は山嶽よりも重く死は鴻毛よりも軽しと覺悟せよ」と書かれています。しかるに国際主義も地球主義もともすれば国家主権をないがしろにするような、そして国家の上に君臨するような印象を受けるのは何故でしょうか。それは国境など一顧だにせず、否むしろビジネスや革命のためには国家を桎梏と位置づける思想的潮流に抗し切れないマスメディアや教育行政に責任の一端があるのは言うまでもありません。国民が幸福を追求する上で国家主義こそが正しい選択であるといわれる所以です。

先人の達成した アジア解放とは

私たちの関心を少しだけ過去に遡らせてみて下さい。かつて西洋人は古典的な国際主義、地球主義を振りかざして元々あった主権国家や民族共同体を次々に併呑して奴隷の状態にして収奪の限りを尽しました。いわゆる「植民地主義」、或いは「コロニアリズム」という考え方で、むき出しの暴力がその手段でした。しかし、抜け目なく基督教の布教で補完していきました。

私たち日本人の先輩は、明治国体で心身ともに武装されていたため一瞬でそのからくりを見破ってしまったのです。天皇陛下を中心とした大家族共同体である「大日本

帝國」が明治以来の歴史の流れとして「大東亜の解放」を掲げたのはいわば歴史の必然といっていいのです。武装せる道義大国の臣民として「義を見てせざるは勇なきなり」だったのです。それは武士(もののふ)の末裔として大義や正義のために生き且つ死ぬことを従容として受け入れてきた民族の摂理といっていいものでした。「公(おおやけ)のために死ぬ」この行動者が尊敬され畏怖される国民的文化があつたればこそ、アジアの解放は成し遂げられたのです。結果、今日の主権国家が続々と樹立されていきました。

しかし、歴史は皮肉なものです。現在ユーラシア大陸で200年前の西洋人の発想と手法で国土を拡大していつているのは支那(中共)です。それゆえ彼らは台湾の主権を認めようとしません。同様に満州、チベット、ウイグルの主権も軍靴で蹂躪し放題です。南支那海に人工島を構築し、国際司法裁判所の判決を「紙屑」と言つて何もはばからない姿にその本質が表われています。

私たち世代の出来ること

歴史の流れからいえば中共という共産党による一党独裁の擬制国家は「道義」や「国権」といった人類の普遍的価値をないがしろにしてでも共産党とそれに巢喰う者のために自国民を犠牲にしながら延命を

図るに違いありません。いわば爬虫類の精神構造といつても過言ではない強弱と損得だけを判断基準にする人工国家と日夜対峙せざるを得ない台湾に思いを寄せるということは、わが国内で中共に通ぜんと跋扈する利敵行為と戦う道でもあるのです。

わが国日本が台湾に思いを寄せということは民族の自立と国家の尊厳のために共に戦うということに他なりません。

自国民を拉致する獐猛な隣国を「諸国民の公正と信義に信頼し」、拉致された娘を奪い返そうとすれば「自衛のための戦力は保持しない」と「忍従を強いる」わが国の憲法典や「南京を首都」とする台湾の憲法に将来を委ねることはできません。日本と台湾はいわば外国製の憲法を押しつけられた「半」国家として共通の立ち位置を確認し、共同して戦線を構築すべき相手国なのです。そしてその目的は共に「半」を外すこと以外ありません。

この壮大な試みに勝利することこそアジア解放史の結論を飾るにふさわしい行為ではないかと思う次第です。3万3千余柱の原台湾人元日本兵軍人軍属の御霊はそのことをかたずをのんで見守っているのではないのでしょうか。

これを偉業といわずして一体何と呼べばいいのでしょうか。陛下の臣民として東洋平和のために共に血と汗を流した同志的兄弟感、一体感はかくして形成されました。台湾の皆様が五十年間の日本統治時代の伝統や文化、はては「大和魂」を高く評価し、これらを「日本精神」として継承している世界に類を見ない親日的な国家、国民である由縁はここに淵源があります。

半世紀に及ぶ日本統治が戦後七十一年の今日に至るまで脈々と生き続ける台湾。この「生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された崇高な使命です。それは今日の私たち日本人が民族としての自覚に目覚め誇りを高めてゆく契機になるからです。

さて、私たちは昨年日台両国の近未来を照らす指針として「福岡宣言」を採択しましたが、慰霊訪問団は「維新」の荒海に船出する現代の台湾人の良き共鳴板でありたいと念願いたします。

平成十一年以来、私達は宝覺寺における「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんことをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実・拡大し、「日台の魂の交流事業」として次世代に継承していきます。それはこの道こそが「日本人として散華された英霊」にお応えする務めであるからです。

以上の決意も新たに、わが国の近代史に比類なき勇氣と献身を刻まれた英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

日台の生命の絆 死守せむと

吾日本の一角に起つ

平成二十八年

民國百五年

皇紀二千六百七十六年

十二月二十五日

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覧 (第1次より第18次までの団員335名)

青木 繁政	井上 誠二	岡根 智美	木須 治彦	小菅 健太郎	柴田 知則
赤松 公昭	井上 理恵	小倉 和彦	北浜 道	小菅 野聖也	柴田 好章
浅見 晃甲	井口 セツ子	小倉 弘子	木付 辰生	小松 友子	柴田 英明
天野 敬彦	井原 四郎	小倉 美帆	木付 靖子	小松 正隆	島 啓三
阿部 敏俊	今村 之昭	小川 克江	城所 尚代	小柳 陽太郎	島 むつみ
阿部 雅和	岩重 誠	鬼塚 芳治	木下 嘉平	五郎丸 浩	嶋田 謙一
垣 政也	岩淵 宣仁	小野 辰正	木村 権二	五郎丸 美佐江	下田 健純子
津 雅也	岩元 周宣	小野 実里	木村 秀人	齋藤 弘	下田 純子
荒牧 賢二	本 宣善	小野 善和	木村 孝子	坂田 照子	白水 キミ子
有吉 忠助	ウイクラムスレンドラサニ	小濱 一志	清瀬 武子	坂田 三幸	新開 崇司
有吉 弘子	牛島 康智	折居 正規	清瀬 空	坂本 彰	新谷 寛
安藤 政明	江頭 伸一	折居 慎司	桐谷 勝	櫻井 英夫	菅沼 由美
安藤 由紀子	江崎 君公	柿元 聖三	桐野 尚枝	佐護 美和子	菅沼 雄一
飯島 茂美	エドワーズ 博美	加藤 勝敏	桐野 隆徳	佐々木 建城	杉山 洋一郎
家村 裕二	大石 俊英	梶栗 伸幸	國武 利貴	佐々木 朗子	角 文彦
池田 裕久	大嶋 玲子	柏原 正弘	國友 健男	佐々木 佳重	関 俊一
石川 秀章	大塚 ヨシ子	金澤 明夫	久保 直子	佐竹 聖子	高須 信一
石原 章臣	大坪 龍彦	金澤 千代美	倉田 栄男	佐竹 秀三	高田 治成
石原 一三	大西 敬吾	金澤 礼	倉田 光房	佐竹 冬子	高野 裕光
石原 祐教	大西 樹仁	我那覇 真子	黒田 務	佐藤 敏子	高橋 成子
石川 清子	大庭 昭仁	我部 孝夫	小池 榮	佐藤 正吉	高岡 裕志
伊藤 徹夫	大林 さやか	亀渕 武士	黄 楷	佐藤 井	高竹 尚志
市来 洋基	大田 猛	亀渕 喜久子	古賀 誠	讃 先	田尻 雄一
井手 健二	岡田 俊美	茅野 紀子	古賀 靖啓	塩 重松	田中 伯央
稲田 俊治	岡方 聡子	茅野 一寿	小菅 武三郎	重松 博	田中 秀男
井上 昌俊	小川	神田 橋	小菅 順子	篠原 章好	田中

『日華(台)親善友好慰靈訪問団を代表し、

原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて

慎んで祭文を奏上いたします。』

祭文

『清國八左記ノ土地ノ主權並ニ該地方ニ在ル、城壘、兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス

一、遼東半島

一、台湾全島及其ノ附屬諸島嶼

一、澎湖列島(「日清講和条約第二條」より)

英霊の皆様への言葉ゆえ、先ずその歴史からひも解かせていただきます。

明治二十八年四月十七日、下関の春帆樓における日清講和談判の結果、台湾はわが国に割譲されました。明治四年の牡丹社事件の後、明治六年清国に赴いた日本側全權副島種臣に対し、清国皇帝同治帝をして「化外の地」と言わしめた台湾が名実ともにわが国に帰属した瞬間です。爾来、百二十一年に及ぶ日台関係はこの時をもつて起点としますが、台湾の歩みは華夷秩序から限りなく遠ざかる軌跡を描いて今日に至っています。

日清戦争によつて支那の冊封体制から朝鮮を離脱させたわが国にとつて、後年欧米白色人種の圧政に呻吟するアジアをその鉄鎖の軛から解放せんとした大東亜戦争は、いわば歴史の必然でした。今、英霊として眠つておられる皆様は、南海の島々や熱帯の密林で白人圧政者の軍隊と、また支那大陸で蒋介石率いる重慶軍や毛沢東の共産匪賊と生死を賭けて戦つた同胞でした。とりわけ七百倍ともいわれる難関を突破し、血書歟願をしてまで志願してこられた皆様は、日本人以上の日本人として歴史に残る勇猛果敢さを発揮され、敵を圧倒し悩ませました。

国家国民の総力を挙げた三年と九ヶ月に亘る戦いにもかかわらずわが国は敗れましたが、国体を護り、大東亜解放の壮図を成し遂げました。とまれ、わが国が軍事的敗北を余儀なくされたとはいえ、四百年以上に及ぶ欧米列強の植民地支配に終止符をうち、アジアにおける全ての権益を失わせしめ、結果、民族自決の潮流を澎湃として巻き起こしたのは紛れもない世界史的事実です。

彦 康
子 妙
史 好
範 自然
明 智
希 英
子 垂
悟 賢
悟 正
久 博
俊 雅
洋 勝
美 勲
子 喜
久 周
司 恭
二 幸
德 博
朗 樹
文 弘
一 瑞
枝 晋
作 普敬称略50音順
但し、家族は「長幼の序」に従った子 潤
美 久
子 治
義 マ
ツ ヨ
清 美
照 美
次 貴
祐 佳
実 博
義 茂
子 弥
始 郎
邦 政
裕 誠
隆 夫
百 子
淳 初
美 敬
惠 晴
子 靖
敬 子
学 昭
雄 大
輔 大本 間
前 田
前 田
前 田
前 原
又 丸
松 岡
松 下
松 俵
松 俵
松 永
松 永
松 葉
原 三
好 本
虫 井
向 山
村 山
村 森
森 森
森 岡
森 下
守 田
矢 部治 淳
悦 弘
子 美
紀 敏
武 洋
文 伍
明 由
彦 和
彦 雄
扶 典
金 有
智 子
滋 枝
章 子
史 洋
達 男
潔 一
耕 郎
一 豊
邦 彦
孝 典
友 秀
茂 夫
和 代
克 巳日 吉
日 吉
平 泉
平 泉
平 尾
平 尾
永 平
平 野
平 松
廣 石
廣 石
瀨 岡
福 岡
福 岡
福 原
藤 田
藤 末
藤 村
本 津
星 野
星 野
本 田
本 田
堀 川名 越
成 田
南 西
西 村
西 山
庭 木
沼 田
根 之
野 口
野 見
山 羽
音 花
田 濱
原 林
林 原
原 田
原 田
原 田
東 久
野 久
野 高美 智
子 千
秋 實
一 也
弘 安
洋 二
郎 正
夫 清
昭 憲
工 シ
治 亮
優 平
修 惠
政 彦
修 修
千 紀
雅 和
典 種
子 經
子 宏
昭 臣
智 教
子 睦
誠 誠田 中
田 中
田 中
田 中
谷 垂
谷 尾
谷 村
田 村
田 村
田 村
反 田
反 田
反 田
團 宝
陳 怡
塚 田
塚 田
塚 田
津 田
津 田
土 留
津 鶴
鶴 井
鶴 岡
鶴 澤
鶴 澤
出 田
德 田
戸 富キ ミ
美 咲
道 夫
秀 幸
希 子
侃 祐
子 明
次 俊
邦 彦
由 美
子 誠
二 久
美 一
建 彬
毅 輔
理 彦
郎 枝
子 也
雄 一
昇 昇



〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉(訪問年月日順／日付は初回訪問日)

- ①故宮博物院／H11.3.6
- ②忠烈祠(台北)／H11.3.6
- ③龍山寺／H11.3.6
- ④阿美文化村／H11.3.6
- ⑤太魯閣峡谷／H11.3.7
- ⑥梨山／H11.3.7
- ⑦日月潭／H11.3.7
- ⑧宝覺寺／H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中)／H11.3.8
- ⑩飛虎將軍廟／H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城)／H11.3.8
- ⑫東方技術学院(旧東方工商專科學校)／H11.3.8
- ⑬夜市(高雄・六合路)／H11.3.8
- ⑭寿山公園／H11.3.9
- ⑮澄清湖／H11.3.9
- ⑯蓮池潭／H11.3.9
- ⑰育英醫護管理專科學校／H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南)／H12.11.24
- ⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑／H13.11.26
- ⑳徳生長老教會／H14.6.8
- ㉑愛河／H14.11.23
- ㉒奇美博物館／H14.11.24
- ㉓烏山頭ダム(烏山頭水庫)／H14.11.24
- ㉔芝山公園／H14.11.26
- ㉕八田與一記念館／H15.11.24
- ㉖南栄技術学院／H15.11.24
- ㉗九族文化村／H15.11.25
- ㉘日本人墓地(高雄)／H16.11.23
- ㉙潮音寺／H16.11.24
- ㊱明石元二郎総督墓所／H16.11.26
- ㊲保安堂／H17.11.23
- ㊳孔子廟(台中)／H17.11.25
- ㊴台中公園／H17.11.25
- ㊵夜市(台中・中華路)／H17.11.25
- ㊶国史館台湾文献館／H17.11.25
- ㊷濟化宮／H17.11.25
- ㊸貞愛親王殿下登陸記念碑／H19.11.24
- ㊹夜市(台北・士林區)／H19.11.25
- ㊺中華民國外交部／H19.11.26
- ㊻台北101ビル／H19.11.26
- ㊼鹽水國民小學／H20.11.24
- ㊽八角樓／H20.11.24
- ㊾富安宮／H20.11.24
- ㊿鵝鑾鼻公園／H21.11.23
- ㊽巴士海峡／H21.11.23
- ㊾殉工碑／H21.11.24
- ㊿三一基督長老教會／H22.3.13

- ㊽忠烈祠(桃園)／H22.3.14
- ㊾海尾朝皇宮／H22.11.23
- ㊿勸化堂／H22.11.25
- ㊽林森公園／H23.11.22
- ㊾東龍宮／H23.11.23
- ㊿八田與一記念公園／H23.11.24
- ㊽台中市政府／H23.11.24
- ㊾新化國民小學御眞影奉安殿／H24.11.23
- ㊿台南武徳殿／H24.11.23
- ㊽台南市政府／H24.11.23
- ㊾二峰圳(地下ダム)／H25.11.23
- ㊿喜楽發發森林公園／H25.11.23
- ㊽烏來酋長文化村／H25.11.26
- ㊾篤行基督長老教會／H26.8.16
- ㊿高雄市政府／H26.11.24
- ㊽台灣無名戦士記念碑／H28.11.23
- ㊾台灣総統府／H28.11.26
- ㊿海明禪寺／H28.11.22
- ㊽二二八紀念公園／H28.11.26



現地メディアの取材を受ける小菅団長(台北)

〈交歓先〉(交歓年月日順／日付は初回交歓日)

- 許國雄先生／H11.3.8
- 台灣中日海交協会／H11.11.24
- 蘇金淵先生／H11.11.25
- 蕭興從先生／H11.11.25
- 詹徳寛先生／H14.11.23
- 許文龍先生／H14.11.24
- 何怡涵・陳清華ご夫妻／H15.11.24
- 台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」)／H16.11.24
- 台中市日本文化協會／H16.11.25
- 王春茂・馮英鳳ご夫妻／H16.11.25
- 沈芳以・呉月雲ご夫妻／H17.11.25
- 蔡焜燦先生／H18.11.26
- 台日文化經濟協會／H18.11.26
- 黃明山・葉美麗ご夫妻／H20.11.24
- 黃崑虎先生／H21.11.24
- ラバウル會／H22.11.24
- 黃文雄先生／H25.11.22

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6～9 土～火 ガイド 李 燕光 神僧職 なし 旅行社 ヤマトトラベル (15ヶ所)	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 (花蓮泊)	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 (日月潭泊)	⑧宝覺寺 ⇒日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 (高雄泊)	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23～26 木～日 ガイド 陳 賜賢 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学学校 ⇒東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覺寺⇒ 日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23～26 金～月 ガイド 陳 賜賢 神僧職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎將軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23～26 土～火 ガイド 呂 見清 神僧職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河⇒交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎將軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	⑨宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園(慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23～26 日～水 ガイド 呂 見清 神僧職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①飛虎將軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) ⇒八田與一記念館 ③奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑨芝山公園(慰霊式)
第6次訪問 8名 H.16.11.23～26 火～金 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (11ヶ所)	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協會) ⑩交歓会(王春茂・馮英鳳ご夫妻)	⑪明石元二郎総督墓所 (慰霊式)

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第7次訪問 20名 H.17.11.23～26 水～土 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト	①保安堂(献花式) ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰靈式) ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式) ⑦交歓会(台灣台日海交聯誼會)	⑧宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑨交歓会(台灣中日海交協会) ⑩交歓会(台中市日本文化協會)⇒孔子廟⇒台中公園 ⑪交歓会(沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市	⑬明石元二郎総督墓所(慰靈式) ⑭芝山公園(慰靈式)	
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台中泊)		
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰靈式) ②交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	③飛虎將軍廟(慰靈式) ④奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑥交歓会(台灣中日海交協会)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑧交歓会(台灣台日海交會)※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台灣文獻館(調査) ⑩濟化宮(献花式)	⑪高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰靈式) ⑫講話(蔡焜燦先生)⇒交歓会(台日文化經濟協會)	
(12ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)		
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰靈式) ②奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰靈式) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台灣台日海交會)※台中市日本文化協會合流	⑧宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑨交歓会(台灣中日海交協会) ⑩濟化宮(献花式) ⑪夜市	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会(台日文化經濟協會)	
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)		
第10次訪問 31名 H.20.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰靈式) ②芝山公園(慰靈式)	③保安堂(慰靈式) ④東方技術学院 ⑤奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰靈式) ⑦交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	⑧烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學⇒八角樓 ⑩交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台灣台日海交會)	⑭宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑮交歓会(台灣中日海交協会) ⑯濟化宮(献花式) ⑰夜市	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)
(19ヶ所)	(台北泊)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)	

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第11次訪問 30名 H21.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) (墾丁泊)	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館→ 交歓会 (許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会 (黃明山・葉美麗 ご夫妻) ⑧夜市 (高雄泊)	⑨烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式) →八田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歡 迎式典)→八角樓 ⑫交歓会(黃崑虎先生) ⑬交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑭宝覺寺→日本人墓 地(慰霊式)→靈安 故郷碑(慰霊祭) ⑮孔子廟 ⑯交歓会(台湾中日 海交協会) ⑰濟化宮(慰霊式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会 (台日文化經濟 協會)
第12次訪問 46名 H22.11.22～26 月～金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①芝山公園 (慰霊式) ②講話 (蔡焜燦先生) (台北泊)	③烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式)→ 八田與一記念館 ④交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮 (献花式)→ 飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鹽水國民小學 (歡迎式典) ⑨交歓会 (ラバウル会) ⑩宝覺寺(A班)、 台中公園(B班) ⑪交歓会(台灣台日 海交會) ⑫夜市 (台中泊)	⑬宝覺寺→日本人墓 地(慰霊式)→靈安 故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日 海交協会) ⑮勸化堂(献花式) ⑯濟化宮(献花式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会 (台日文化經濟 協會)
第13次訪問45名 H23.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 神僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州 (17ヶ所)	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ③交歓会(台日文 化經濟協會) ④林森公園 (台北泊)	⑤飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑥奇美博物館→交 歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黃明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨保安堂(慰霊式) ⑩烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式) →八田與一記念 館→八田與一記 念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑬宝覺寺→日本人墓地 (慰霊式)→靈安故郷 碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海 交協会) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑯明石元二郎総督墓 所(慰霊式) ⑰芝山公園(慰霊式)
第14次訪問38名 H24.11.22～26 木～月 ガイド 簡 添宗 曾 英明 神僧職 なし 旅行社 JTB九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(黃明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	③東龍宮(慰霊式) ④新化國民小學御 眞影奉安殿 ⑤台南武徳殿 ⑥飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑦台南市政府 (台南泊)	⑧鹽水國民小學 (歡迎式) →八角樓 ⑨貞愛新王殿下登 陸記念碑 (献花式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺→日本人墓地 (慰霊式)→靈安故郷 碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会 (台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化 經濟協會) (台北泊)	⑰芝山公園 (慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲林森公園 ⑳交歓会 (蔡焜燦先生・ 黃文雄先生)

※ →について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第15次訪問 32名 H25.11.22～26 金～火 ガイド 簡 添宗 謝 添基 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (16ヶ所)	①忠烈祠(献花式) ②中華民国外交部 ③林森公園 ④交歓会(黄文雄先生)	⑤二峰圳(地下ダム) ⇒喜樂發森林公園 ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦保安堂(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑨海尾朝皇宮(献花式) ⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩烏山頭⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) ⇒殉工碑(献花式) ⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪歓迎会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⇒台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會)	⑯高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⇒酋長文化村
第16次訪問 48名 H26.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 吳 志仁 范 智凱 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (18ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⇒酋長文化村 ②林森公園(献花式) ③交歓会(黄文雄先生)	④烏山頭ダム⇒八田與一記念館 ⇒殉工碑(献花式) ⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) ⇒八田與一記念公園 ⑤東龍宮(慰霊式) ⑥交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑦保安堂(慰霊式) ⑧高雄市政府 ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協會) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民国外交部
第17次訪問 32名 H27.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 鄭 清川 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (17ヶ所)	①明石元二郎台湾総督墓所(慰霊式) ②交歓会(黄文雄先生)	③台湾無名戦士記念碑(慰霊式) ④東龍宮(慰霊式) ⑤交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑥保安堂(慰霊式) ⑦高雄市政府 ⑧飛虎將軍廟(慰霊式) ⇒海尾朝皇宮(参拝) ⑨奇美博物館 ⑩交歓会(台湾台日海交會)	⑪宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑫台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會)	⑯中華民國總統府 ⑰中華民国外交部
第18次訪問 50名 H28.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 鄭 清川 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (17ヶ所)	①海明禅寺・富田直亮將軍墓所(慰霊式) ②中華民国外交部 ③交歓会(黄文雄先生)	④昭和天皇(裕仁皇太子)御手植え榕樹⇒原臺歩兵第2連隊本部・兵舎跡 ⇒衛戍病院跡 ⑤海尾朝皇宮(参拝) ⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑧保安堂(慰霊式) ⑨烏山頭ダム⇒八田與一記念館 ⇒殉工碑(献花式) ⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) ⇒八田與一記念公園 ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑬台中国家歌劇院 ⑭交歓会(王春茂・憑英鳳ご夫妻) ⑮濟化宮(献花式)	⑯芝山公園(慰霊式) ⑰中華民國總統府⇒二二八記念公園

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

第十八次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 帰朝報告

期間 平成二十八年十一月二十二日（火）～二十六日（土）

参加者 五十名

■ 十一月二十二日（火）

今次訪問団員五十名のうち、二十二日福岡発の三十二名は、八時に福岡空港国際線出発ロビーに集合した後、特別待合室で出発式を行いました。訪問の目的、意義、役員の紹介、注意事項の説明、記念写真の撮影を手短かに済ませ、出国手続きを終えた一行は、四泊五日の旅の期待を胸に、十時五十五分チャイナエアライン一一便で空路台北へ向けて出発しました。

機内食をいただき寛いでいるうちに、現地時間十二時三十五分に桃園国際空港に到着しました。入国手続を済ませて空港待合室に出ると、今回で十一回目となるガイドの簡添宗さんや新亜旅行社の皆さんが温かく出迎えて下さいました。現地合流組の二人ともうまく合流し、一行は専用バスで早速、最初の訪問地である海明禪寺へと向かいました。

遺骨と遺影の前で慰霊式を斎行

新北市樹林区にある海明禪寺は、富田直亮陸軍少将をお祀りする禪寺で今回が初めての訪問です。道路が狭く門前まで大型バスが乗り入れることが出来ないため、途中で三台のマイクロバスに分乗して辿り着きました。本堂をお詣りした後、再びマイクロバスで納骨堂へと向かいました。納骨堂で読経が行われた後、僧侶に先導されて、小菅亥三郎団長がお遺骨と遺影を納骨堂からお預かりして祭壇に安置しました。小雨の降る中、祭壇の前に整列した一行は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、団長による献花の手順で肅々と慰霊式を斎行しました。団長の挨拶の後、各自献香し、お遺骨と遺影を納骨堂にお返しして慰霊式を終えましたが、静まりかえった境内で営まれた式は、まさに法要と呼ぶに相応しい感動を与えました。

海明禪寺を後にした一行は、中華民国外交部を表敬訪問しました。

出迎えて下さったのは蔡明耀亞東関係協会秘書長で、歓迎の挨拶で、東アジアの平和と安定のためには台日の関係強化が重要であること、いわゆる日本語世代が高齢化していることが大きな懸念であり、今後は若い世代の交流を強めていきたいと強調されました。また小菅団長も答礼の挨拶で、後藤新平の「財を遺すは下 事業を遺すは中 人を遺すは上なり」という言葉を引用して、後継者の育成が喫緊の課題だと応じられました。その後、質疑応答と役員の紹介があり、最後に全員の名刺交換で一時間弱の表敬訪問を終えました。帰り際、外交部の玄関前で蔡秘書長も交えて記念写真を撮り外交部を後にしました。

台湾の政権交代で意気軒高

外交部の表敬訪問を終えた一行は、昨年と同じ会場の「紫都」で黄文雄先生主催の歓迎夕食会に臨みました。会場に着くと黄先生が満面の笑みで私たちを出迎えて下さり、六月の台湾特別講演会以来の再会を喜び合いました。会場には黄先生の知己の皆様がお集まりで、中にはアメリカからわざわざこの日のために帰国された方もおられました。乾杯の音頭をとられたのは黄天麟台日文化経済協会会長で、今年は先約が入っていたため協会の皆様との会食を行程に入れることができなかっただけに、お目にかかれて大変嬉しく思いました。宴中の話題の中心は何といっても台湾の政権交代です。第十七次のこの会場での予想通り、蔡英文氏が一月の台湾総統選で勝利し、国民党政権から民進党政権へと交代しましたので、皆さん様に意気揚々としておられ、台湾の将来に大いに期待しておられる様子を心から感じました。明るい話題で話も弾み、もっとゆっくりしたかったのですが、翌日は朝が早いこともあり名残を惜しみつつ宿泊

先の慶泰大飯店に戻りました。

■ 十一月二十三日（水）

二日目の二十三日は、ホテルで早目の朝食を摂り、七時五十分台北駅発の台湾新幹線で台南へ向かいました。ところがここでちょっとしたトラブルが発生しました。ホームで列車待ちをしていた十数名が一本早い車輌に乗り込んでしまったのです。本来の列車の方が早く台南駅に着きましたので、先発の列車の到着を台南駅で待ち、無事合流することが出来、胸をなで下ろしました。全員が揃うと専用バスで台南の成功大学へと向かいました。

昭和天皇御手植の記念樹の
荘厳な勇姿に圧倒

大学に着くと国際事務処の王維聰教授等が出迎えて下さり、蔡侑樺氏に学内を案内してもらいました。先ず見学したのは、昭和天皇が摂政の宮の時に行啓せられて御手植えされた記念樹の榕樹（ガジュマル）です。九十年余を経たガジュマルは見事な枝ぶり、荘厳な勇姿に圧倒されました。続いて原臺歩兵第二連隊の本部、兵舎跡を見学しましたが、当時の建物がそのまま保存されており、ここでも朝鮮との違いを再確認させられました。そして九十八歳になられる最高齢参加者の沼田岩夫氏が、大東亜戦争中に一時入院されていた病棟を見つけ、感慨深いものがありました。

成功大学での見学を終えた一行は、ここで二手に分かれることになりました。昼食を終えた後、本隊は先ず海尾朝皇宮を訪れました。予定よりも早く到着しましたので、まだ区長がお見えになっておらず、私たち単独で献花式を執り行いました。丁度式を終えた頃、いつも祭事を主宰される郭秋燕さんがお見えになったので、海尾朝皇宮の詳しい話を聞きた後、用意して下さった善哉や

バナナを美味しくいただき、飛虎將軍廟へ向かいました。

飛虎將軍廟に着くと、台南市政府国際関係科の王祉勻さん等が待っておられました。本来台南市政府を表敬訪問する計画でしたが、面会予定の賴清徳市長の代理、許淑芬報道部長も急な公務で出席が難しくなり、王さん等が飛虎將軍廟にお見えになりました。早速名刺交換をして記念品の贈呈を行い、表敬訪問に代えました。

その後、廟の作法に従って慰霊式が斎行され、松俵義博常任顧問と大山猛、富原浩両副団長による煙草の献上で執り取めました。爆竹の激しく鳴り響く中、黄支部長の待つ高雄へ向けて出発しました。

一方、小菅団長率いる五名の別動隊は、約二時間かけて屏東の東龍宮へ向かいました。東龍宮は第十五次の訪問の際に改築工事の起工式を行い、拝庭の増築工事を行っていましたが、地元枋寮の和風芸術文化季に合わせ落慶式を行うことになりました。是非、この時に参列して欲しいとの堂守の石羅界さんの要望があり、急遽出席させていただくことになりました。

東龍宮の拝庭落慶式で大歓待

到着すると、歓迎の横断幕が掲げられており、子どもたちの太鼓や獅子舞での大歓迎を受けました。早速、新しくなった拝庭で、神社参詣と同様に二拝(礼)、二拍手、一拝の作法で御参りました。その後、地元の水果テレビ局の取材を受け、小菅団長、石羅界さん、屏東縣文化處處長の呉綿發氏がインタビューに応じました。その後、獅子舞を先頭に神輿を担ぎ、街内を練り歩き、和風芸術文化季の記者会会場へ向かいました。会場では、地元選出の議員、横尾秋洋顧問が挨拶され、子どもたちの太鼓の演奏が披露されここでも大変な歓待を受けました。あっという間に時間が過ぎ途中でしたが、次の時間も来年の再会を約束して会場を後にしました。当日の様子は、翌日、テレビニュース、新聞等で報道されました。

愛子ちゃんのバイオリンの音色に魅了

二手に分かれた隊はそれぞれの訪問を実行した後高雄のホテルで合流し、黄明山支部長ご夫妻主催の歓迎夕食会に臨みました。会場ではご家族の皆様やご親族の皆様がお揃いで歓迎して下さいました。いつもは、支部長の娘さんの黄楷棻支部長代行が切り盛りされるのですが、今回は仕事の関係で能わず、代わって支部長の同僚の林信一氏の通訳で進行了。支部長の歓迎の挨拶、団長の答礼の挨拶に続いて、今回は林氏の愛娘の愛子ちゃんがバイオリンを演奏し、美しい音色で出席者を魅了しました。その後、いつものように和やかに会食、歓談が続き、まるで実家に帰ったような気持ちでご好意に甘えてしまいました。二時間余り歌も交えて交流を深めた後、名残を惜しみつつ来年の再会を約して、宿泊先の華王大飯店に戻りました。

■ 十一月二十四日(火)

甲飛喇叭隊が黙禱に合わせて喇叭を奏上

三日目のこの日は、まず保安堂を訪れました。八時三十分という早い時間にもかかわらず、趙麗恵さんをはじめ地元の皆さんが大勢で出迎えて下さいました。早速、大日本帝國海軍の艦長の慰霊式を斎行しましたが、東京からわざわざ駆けつけられた甲飛喇叭隊第十一分隊の原智崇氏等が黙禱に合わせて喇叭を奏上され、慰霊の誠を尽くされました。式の後、地元の皆さんが用意された美味しい善哉や果物をいただきながら寛いだ後、次の訪問地である烏山頭ダムへと向かいました。

ダムに着くと先ず八田與一記念館を訪れました。館内で八田技師の偉業を映像で鑑賞した後、ダムの中腹にある殉工碑にお参りました。ダム建設にかかわり犠牲となられた日本人四十二名と台湾人九十二名、合計百三十四名の名前が分け隔てなく死亡順に刻まれた碑の前で、黙禱に続いて津田建一氏が献花さ

れてご冥福をお祈りしました。献花式を終えた一行はダムの堤防に移動し、湖畔から全景を一望しました。その後、八田與一、外代樹ご夫妻の墓前で、国旗敬礼、国歌斉唱、黙禱、大山猛副団長による献花に続き、全員で墓前にお線香をあげてご夫妻のご冥福をお祈りしました。湖畔のレストランで昼食をいただいた後、八田技師が暮らしておられた住居等を復元、整備した八田與一記念公園を散策し、往時を偲びました。

森川巡査に根之木元警察官が献花

ダムを後にした一行は、嘉義縣東石郷にある富安宮を訪れました。地元民に慕われた「義愛公」こと森川清次郎巡査を祀るお宮です。ここでも慰霊式を斎行し、福岡県警の元警察官の根之木昭憲氏が代表して献花された後、警察官らしい挨拶で締め括られました。森川巡査がかつて住んでいた住居跡の横に森川巡査の功績を称えた小さな公園が整備されており、地元の方々が誇らしげに話されているのが印象的でした。

富安宮のお参りを済ませると、一路台中を目指しました。この日の宿泊先である全国大飯店で、原田泰宏副団長指揮下の二泊三日のB班五名と合流し、台湾台日海交会主催の歓迎夕食会に臨みました。会場に着くと会の幹部の方々すでに待っておられ、温かい拍手で迎えて下さいました。顔なじみの方も多く、会場のいたる所で一年振りの再会を喜び合う光景が見られました。程なく林余立会長の挨拶、記念品の贈呈、小菅団長の答礼の挨拶に続いて、原田副団長の仕舞いが披露された後、開宴となりました。今年は、会からの要望もあつて訪問団員多数が最初からカラオケに興じ、歌が途切れることがありませんでした。各テーブルでの談笑も盛り上がり、盃を重ねるうちに、瞬間にお開きの時間になり、一年後の再会を約してホテルに戻りました。

■ 一月二十五日(金)

この日は慰霊訪問の最大行事「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没

者大慰霊祭」に参列するため宝覺寺を訪れました。参列に先立ち、境内の一画にある日本人遺骨霊安所（日本人墓地）で慰霊式を斎行しました。墓前に整列した後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の後、昨年に続いて横尾秋洋顧問が追悼の挨拶をされ、厳かに式を終えました。その後団員全員でお線香を上げましたが、式を見守っておられた一般観光客の方々にもお声をかけ、一緒に一万四千余柱のご冥福をお祈りしました。

日本人墓地での慰霊式を終えて、霊安故郷碑前での慰霊祭の席に着くと、日台の国旗掲揚、国歌斉唱、軍艦旗掲揚で開式し、林余立台湾台日海交会会長の主宰者挨拶に続いて、小菅団長が挨拶を述べました。その後、主宰者代表、小菅団長の祭文奏上が行われましたが、式の途中、大音量の音楽が鳴り響いて話しが聞きづらかったのが気になりました。偶然だったのかもしれませんが、もし何者かによる意図的な妨害行為だとしたら、ご英霊に対する冒瀆として許せないと思いました。

戒處長の勧めで

台中国家歌劇院を見学

「海ゆかば」の合唱で慰霊祭を終えた後、台湾の皆さんと一緒に記念写真を撮り、境内を散策した後、台中国家歌劇院を訪れました。ここは、福岡の辦事處の戒義俊處長からは是非立ち寄ってみたいと強く勧められた所です。設計を手がけたのは日本の著名な建築家・伊藤豊雄氏です。斬新な外観の建物で、一階にはお土産屋があり、もう少し時間をかけてゆっくり見学したかったと思いました。

蔡淑如事務局員の

オリジナルメニューで昼食会

その後、台湾海軍ラバウル会会長の王春茂・馮英鳳ご夫妻との交歓会に臨みました。この日の昼食会場は、実はワーキングホリデーを利用して来日し、九州不動産専門学院でアルバイトをしていた彰化縣出身の蔡淑如さん（慰霊訪問団台湾支部事務局員）が私達のために探して

くれたものでした。そしてメニューも彼女が選んでくれたオリジナルのものでした。肉料理、魚料理、櫻海老入りの台湾国土を模った御目出度いおこわ等、ワイルドで且つ繊細で、彼女の気づかい溢れた内容の食事は、今までの食事の中で一番美味しかったと好評でした。

食事のあと王春茂氏からは是非自宅に寄ってもらいたいとご招待され、お宅にお伺いしました。三階建の広々とした家で、高価な調度品が置いてあり、目を見張りました。美味しい紅茶と果物をご馳走になり、いつもでもお幸せにと念じてお暇乞いをしました。

その後、バスは北上し、新竹縣にある濟化宮に着くと、謝鏡清董事長とお宮の皆さんが笑顔で出迎えて下さいました。早速本殿にお参りし、献花式を執り行いました。二礼二拍手一拝の後、東京からご参加の山口衛氏が献花され、感動の連続だったと感想を語られました。

その後、謝董事長に靖國神社から分祀された四万余柱の霊璽棟をご案内して頂いた後、社務所前で美味しいお餅とお茶をご馳走になり寛ぎました。夕暮れの迫中、来年の訪問を約して山門を出ました。

現地旅行社のトップが慰労会で挨拶

バスで新竹駅へ向かい新幹線に乗り換え、三十分弱で台北駅に到着後、夕食会場に向かいました。旅の最後の夕食ということで「慰霊訪問団慰労会」と銘打って団員のみで和やかに食事をしました。会場に新亞旅行社の張政美社長がお見えになっていたのも、開宴に先立ち一言ご挨拶いただきました。旅行会社のトップが自らが顧客の食事会場に出向くというのは異例で、訪問団のことを高く評価して下さっている証左だと誇りを覚えました。ちょっと贅沢な食事を済ませてホテルに戻った後、夜市組、マッサージ組に分かれて自由行動となりました。夜市組は希望者十数名で士林夜市に繰り出し、大勢の人で賑わう夜店を回り、今年も台湾のパワーをいただいてホテルに戻りました。

十一月二十六日（土） 二百数段の階段を父を 背負って登る親孝行

最終日のこの日は、士林にある芝山巖を訪れ、土匪の凶刃に斃れた六士先生の供養を行いました。芝山巖は小高い丘で、その頂き付近にお墓と碑があり、急な階段を登っていかなければなりません。実は今回、大正八年生まれの沼田岩夫氏が車椅子で参加されていましたが、息子さんの沼田真清氏がお父様の望みを叶えてあげたいということで、二百数段の階段をお父様を背負って登っていかれました。まさに「父母ニ孝ニ…」そのもので、頭の下がる思いがしました。

「学務官僚遭難之碑」の前に整列した一行は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷を行い、教育界を代表して福田章枝さんが献花されました。福田さんは挨拶の中で教育の大切さと大変さを語られ、多くの共感を得ました。慰霊式を終え下山した一行は、二二八記念公園を訪れました。二二八事件で虐殺された台湾民衆の無念さは察するに余りあり、静かに心の中でご冥福を祈りました。その後、市内のレストランで飲茶の昼食をいただきました。乾杯の音頭を取られた沼田真清氏が、若い頃のお父様との葛藤を話されたのを聞いて、それが故に今の親孝行があるのだろうと感じました。

昼食を終えた一行は、土産物店に立ち寄ってショッピングを楽しんだ後、桃園国際空港へと向いました。空港に着くと搭乗手続きを済ませ、五日間お世話になったガイドの皆さん達に厚くお礼を述べ、来年の再会を約して別れました。空港を離陸したチャイナエアライン一〇便は十九時三十五分に無事福岡空港に着陸しました。入国手続きを済ませ、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝し、沢山のお土産や想い出と共に、一月の帰朝報告会での再会を楽しみに家路につきました。

（文責 原田和典）



第18次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

台湾との絆の深さに感銘

まつだわら よしひろ
常任顧問 松俣 義博 氏
まつだわら しげこ
第四班倉田班 松俣 茂子 氏

第十八次日華(台)親善友好慰霊訪問の出会いあり、再会ありで感謝、感謝の旅でした。

十一月二十三日は成功大学で昭和天皇御手植え記念樹の大きさにびっくりしました。歩兵第二連隊本部や兵舎跡を見学し、昔のままの姿で残っており、今の日本が平和であること、私たちが幸せな暮らしができる事もご英霊のおかげだと思いました。団員の中で、九十八歳のお父様を息子さん、二人の介護スタッフ、病院の先生が行く先々でいつも一緒に支えられ、元気で笑顔で話をされている姿には感動させられました。東石の富安宮も立派に完成しており、日本人警察官森川清治郎が祀られており、当時、村人に愛され、信用され、世話をされとても家族的だったのだと思いました。

十一月二十五日の台中・宝覺寺での日本人墓地慰霊式、靈安故郷碑での慰霊祭では台湾の元日本兵軍人軍属の方の代表と小菅団長が祭文を奏上されました。何度参列しても胸が熱くなります。台湾の方々には日本統治時代より今にいたるまで自分たちは日本人だと胸をはり、肩を並べ、昔の歌を上手な日本語で歌い、楽しく心温まる歓迎の気持がとても嬉しかったです。

十一月二十二日より毎日朝、バスの中でその日の訪問先の資料が渡され、

小菅団長が詳しく説明をしてくださり、団長の奥様、スタッフの皆さま本当にありがとうございました。

十一月二十六日の土林の芝山巖の六士先生のお墓に行った時、長い階段をお父様を負ぶって登られる息子さんの姿を見て、息子さんのやさしさに心温まる思いでした。沖縄から親子で、また新潟、佐渡島をはじめ日本各地から今回も団員の方が加わり、皆さん充実感で笑顔いっぱいでした。

今回で八回目の参加でしたが、まさに感動、感動の旅でした。今回、お誘いして一緒に参加された皆さんも初めての台湾でしたが、行ってよかったと大変喜んで下さり、また一緒に慰霊の旅にと言っていました。小菅団長ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

日本人として台湾 日本語世代の方々の人生と 心情に寄り添いたい

はらだ やすひろ
副団長 原田 泰宏 氏

最初に、意義ある慰霊訪問を計画・催行された小菅団長、事務局関係者の方々に改めて敬意を表すると共に、御礼を申し上げます。

今回は、今までの気持とは違って、改めて慰霊の旅について考えさせられたものでしたので、体験したことを含めて述べたいと思います。

今回で六回目の参加は、三日目の夜の台湾台日海交会の歓迎夕食会からA

コースに合流するBコースでした。昼過ぎに台中のホテルに到着し、夜の夕食会まで時間がありましたので、今まで慰霊祭で知り合った台湾の日本語世代の方々を訪ねようと思いました。昨年、慰霊の旅に参加できずお会いできませんでしたので、高齢であるこれらの方々の安否も兼ね、夕食会では時間も限られますので、ゆっくりお話でもできればと思っていました。事前に連絡もしていなかったのですが、ご在宅かどうかは分かりませんが、せっかくの貴重な時間でしたので、住所だけを頼りに五名でタクシーに乗り込みました。同じBコースの方にお声掛けをしましたら、私と初対面にも関わらず、また詳しい説明もしなかったにも関わらず、そこは慰霊の旅に参加される方だけあつてすぐに同意され、四名の方が同行されることになったのです。

訪問先は張蕊さんです。私が最初に参加した「第十次慰霊訪問の旅」で知り合いになった方です。大正十一年生まれ、日本統治時代に生まれ、大東亜戦争中、国民学校の教員から志願して第一次海外派遣篤志看護助手として香港に派遣され、戦後は、話せない中国語(こちらでは北京語と言われる)に苦勞しながら、戦後を生き抜いてきた方で、初対面の時、「あなた静御前の和歌知ってる?『しずやしず しずのおだまき 繰り返し 昔を今になすよしもがな』をずっと思いながら戦後を生きてきたのよ」と話しかけられる流暢な日本語を聴いて、なんと教養があり、現在の日本人以上に日本人らしい方にお会いし、戦

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 戎 義 俊

☎(092)734-2810

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-42

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 矢ヶ部 大輔

☎(092)631-2901

〒812-0045

福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁地下1階

前の日本人(当時の台湾人は日本人だった)の素晴らしさに感激した記憶があります。毎回お会いすることを一番の楽しみにしておりましたが、最近では音信も疎くなっていましたし、ひょっとしたら、ご高齢で今日の夕食会には来られないかもしれないと思っていました。

ご自宅を訪ねますと中年のご婦人が出てこられました。『私たちは日本人です。張蕊さんにお会いしたい』という意味が通じて欲しいと期待を込めて、知っている僅かな中国語の単語を並べて話しかけました。熱意で通じたのか、しばらくしてそのご主人とおぼしき男性が呼び出されてきて、私たちを一階の仕切りの奥のベッドへ案内してくれました。そこには、酸素吸入をされたご婦人が横たわっていました。意識はありませんでした。二年前にお会いした時は、杖を突きながらも慰霊祭には出席され、「もうこれが最後かもしれないわ」と冗談とも本気とも取れないことを言われたことを思い出しました。まだかくしゃくとしていましたので、ずっと元気でいらっしゃるだろう、そうあってほしいと願っていました。

しかし、九十四歳の年齢を考えると、このような状況になることは、自然の摂理と言えるでしょう。本当に悲しく、残念に思うと共に、戦後七十一年も経てば、畏れていた通り、日本統治の歴史が消えていく現実をこういう形で知らされた様な気がしました。

同行の方も、初対面の張蕊さんに対し、身内のように声を掛け、手を握って回復を祈っておられました。

私たちは、しばらくものを言わない張蕊さんを見守り励まし、家人の方に面会を許していただいたことに御礼を言って家を出ました。何の前触れもなく、言葉の通じない突然訪ねてきた五人の日本人を、重篤な身内に会わせてくれた息

子さん夫婦に感謝しました。この時、台湾人の人としての優しさを感じました。これが逆の場合だととてもできないと思いました。

日本統治時代に日本語で育った台湾人の方は、戦前の日本の教育は素晴らしかったと皆さんおっしゃいます。私はその日本語世代の方は、大和魂を持った本当の日本人として教育され青年や成人となったが、戦後は突然、物を考え、感情を表現する日本語を禁止され、中国語を強要されたが彼等にとって中国語は外国語であったことから感情を表現するレベルにまでは取り入れることは出来ず、思考する言語として戦前の日本語、及び大和魂が彼等の中に生き残ってきたと思っています。一方、日本本土では、日本語により自虐史観の植え付けがなされてきたため、日本社会で大和魂が悪者にされ、日本でそういう人に会うことが非常に難しくなっています。

さて、その夜の歓迎夕食会には、勿論張さんの姿はありませんが、そこでの出来事が、日本に帰って来て、元気なころの張さんに巡り会わせてくれたのです。それは、張さんと同じように海外派遣篤志看護助手に志願した孫傳秀松さんから戴いたお土産の袋の中にお菓子と一緒に一冊の本が入っていて、「読んでね」と言われて渡されたものでした。台北の紀伊國屋の袋に入ったその本は日本で出版された『台湾の戦後 敗戦を越えて生きた人々』(大谷渡 東方出版)でした。帯には『日本人として育ち戦争を体験した終戦時に篤志看護助手、学徒兵、航空廠少年工などだった人たちが、その後の激変する台湾社会で紡いだ人生を綴る』とあります。最初は孫傳秀松さんのことが書かれておりましたが、読み進めると、突然『張蕊』という文字が目に入ってきました。張蕊さんの生い立

ち、戦前の人生のことが、インタビューされていたことが、このように形で叶ったことに、不思議な縁を感じました。

私は、慰霊の旅の目的である「大東亜戦争で日本人軍人・軍属として命を捧げられた台湾の方々の英霊を顕彰する」に加え、まだ、生きておられる元日本人の方々とできるだけお話をし、手紙を交わし、お土産をお渡しする関係を築くことで、喜んでいただきたいと思います。それは、私の親を始め、戦前の日本人がしていた、今の日本では薄れた逆に今の台湾に色濃く残る懐かしい風習を実践しているだけでした。

しかし、この本の「はじめに」に書かれていた以下の文章で自分がしたいことがハッキリしたような気がします。それは、「日本統治下に育ち戦後七十年を生きてきた台湾の人たちは、日本が始めた戦争のただ中で、日本人として青春期を過ごしたことを、私は忘れてはならないと思う。戦争で亡くした肉親や戦友に深い哀惜の念を持ち続け、平和を祈る強い気持ちも日本内地と内地に引き上げた日本人となんらかわるところがない。ただ戦後、国境を隔てた彼らの存在を多くの日本人が忘れてしまっただけではないか。この人たちの人生とその心情に寄り添うことにきづいてこそ、初めて歴史の真実に触れることが出来るように思える。」

張蕊さんの例を引くまでもなく、私が思う本当の日本人である日本語世代の方々は急速に減ってきております。これらの方々に感謝の念を表すため、この慰霊の旅が続く限り、参加し、台湾の方々の人生と心情に寄り添って行きたいと思います。

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり まちをつくり くにつくる
九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

☎(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

美祿市観光商工部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祿市大嶺町東分326-1

行く度に感動深まる 台湾慰霊訪問の旅

おおやま たけし
副団長・第二班班長 大山 猛氏

三年連続の参加だが感動は深まる一方だった。今回は訪問する前、現在六十七歳の私は、精神年齢的に戦前の日本人としては果して何歳だろうか？との思いがあった。と云うのは、前からよく思っ
て居た事だが、昔の人の文字や文体に触れる程、特に明治維新前後や先の大戦の時残して戴いた靖國、太刀洗、知覧などに残されている魂のこもった遺書の内容とその文字や和歌(うた)の美しさ。それらに触れる度に想いを馳せていた。

しかし、台湾に、この旅に参加すれば生きている昔の日本人に会え、日本人の深層心理を確実に呼び起してくれるのだ。

私は、この旅が何故かくも感激と日本人としての覚醒を促すかを考えた。それは、その名称が「海の彼方のニッポンを訪ねて一日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」と名付けられた事に全てが有ると思った。それは、この旅は単なる「物見遊山」でなく「慰霊」との言葉が入っているように日本人、日本人としての台湾人の英霊や彼の地に心血の全てを注ぎ台湾の土になり、神となられた日本人の方々に感謝の誠を捧げる旅にあると思った。

毎年十一月二十二日から二十六日の四泊五日のこの旅に参加すれば、全てが肌感覚で解る。それは慰霊での英霊との魂のふれあい、生存なされている旧軍人、軍属、従軍看護婦の方々とのお話(しかし、残された時間はあまりない)、昔の日本人に教えられた子、その孫、ひ孫や日本を大好きな各界の人々との触れ合い。それと小菅団長のバスの中や

様々な場面での魂を揺さぶり、日本人として覚醒させられる講話、そのような事を体験する事により、少しは「戦前の日本人に近づいたかな」との認識をする旅であった。是非、第十九次(平成二十九年年度)も参加し、また皆さまも一緒に参加して戴きたい。

終わりに、蛍の光の四番を記しておく。「千島の奥も台湾も、八洲(やしま)のうちの守りなり。至らん国に熟しく、つとめよ我がせつつがなく」(日清戦争後、昭和二十年まで)東日本大震災の時、世界で一番寄付金を送ってくれた台湾へ感謝し、慰霊のこの旅へ参加して真の日本人に近づこうではないか。

「感謝と責任」を実感した旅

つだ けんいち
第一班班長 津田 建一氏

「過去の時間的延長の祖先、先輩に対し感謝、報恩の念を捧げ、未来の時間的延長の子孫、後輩に対して、責任を持たなくてはならないのである。」

(新生佛教聖典「信仰の指針」より)
今回、第十八次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に初めて参加させて頂きました。通常の旅行と違い現地の方々と身近に接し、言葉は直接通じなくても心が伝わってきて、感激の連続でした。正に、心の交流、魂の交流の旅でした。

日本統治時代の台湾の歴史を正しく認識させて頂いたことも意義深いことであり、継承いく責任と共に、実践していかなければと思います。

世界の国の中で一番の親日国であり、治安も日本よりも良いと感じました。「認識台湾」による歴史教育の成果だと感じます。台湾の方々にに対して、私たち日本人が見習うべきことを実感しました。また、

今回参加された五十名の団員の方々と今後も交流を深め、大切な同志として、地域社会へ大切なものを伝えていく責任があります。この慰霊訪問の旅を企画して頂いた団長を始め、関係各位、台湾の皆様に対し、有難く感謝いたします。

身はたとい 武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂

ながはま ひろゆき
第五班班長 永濱 浩之氏

「身はたとい 武蔵の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂」

この辞世の句は、皆様よくご存知の吉田松陰先生が江戸・小伝馬町牢屋敷の中で書き上げられた『留魂録』の巻頭に始まるものです。

台湾各地を慰霊訪問で巡ることに、この辞世の句より受ける深い感銘「死生観」をこの地「台湾」でご教示いただき、素晴らしい台湾慰霊訪問の旅となりました。「武蔵」の部分を「台湾」に置き換えると、当時の原台湾人元日本兵のご英霊の死生観がよく理解できます。

「身はたとい 台湾の野辺に朽ちぬとも 留め置かまし大和魂」

今後さらに日本と台湾の絆が深まっていますように心より祈念いたします。ありがとうございました。

父が何よりも 喜ぶ親孝行が出来た

ぬまた まきよ
第六班班長 沼田 真清氏

この度、初めて慰霊訪問の旅に参加させて頂き、本当に多くの学びと気付きを得、これこそが本物の修学旅行、日

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい 学びあい 助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会

九 栄 会

会長 松尾 嘉三

☎(092)714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

快適な住空間の創造
ハウジング アーキテクチャー システム

(株) H A S

代表取締役 田中 道夫

☎(092)663-5510

〒813-0002

福岡市東区下原4-19-17

エトワール21-605

本人の心を学ぶ修学旅行であると感じております。今回の参加の目的の一つは私の父にこの慰霊の旅に参加してもらう事でした。私は父から戦争の話をほとんど聞かされることなく、育ちました。断片的に、大分四七連隊の兵隊として中国大陆を転々とし、大東亜戦争末期にはフィリピン方面の任務を命じられたが、父親は病に倒れ、台湾の陸軍病院に収容された事くらいしか聞かされておりました。その後、終戦をむかえることになったが、フィリピンの父のいた部隊は壊滅、一人生き残った父はそのことを恥ずかしく思い、悔い、また、夢枕に犠牲になった方々の亡霊が現れていたのか、私の子供時分は度々、うなされていたことを覚えています。

父の晩年は浪曲慰問の旅を趣味としておりました。石垣原合戦や岩屋城合戦等、忠義を尽くして玉砕した武士をテーマとした浪曲を自ら作詞、作曲して日本全国の老人ホームを巡る浪曲慰問の旅でした。今、考えると父は大東亜戦争で亡くなった英霊のことが潜在意識に強く残っており、その英霊を慰める事を浪曲慰問という形で補おうとしていたのでは…とっております。

今回、大東亜戦争で散華された英霊に合掌できた後の父は、本当に安堵の表情を見せてくれ、私自身も父が何よりも喜ぶ親孝行が出来たのではと嬉しく思っています。昔の日本人は死を重んじ、立派な死に方をしたいと念じていたことを団長から教わり、立派な死にようを考えることが、自らの命の使い方、使命に気付く近道であることを教わりました。昔の日本人が軍人勅諭を実践し、立派な死生観を持って、真心から台湾の人々に接していたからこそ、私たち日本人はいまだに多くの台湾人から尊敬と親しみを持っていただいているこ

とも併せて教えて頂きました。

今の平和で豊かな日本は、人柱となつてその礎を築いてくださった多くの英霊のお陰であるという事を、元日本人である台湾人の熱心な姿勢から教えて頂いた気がします。私たちは、その多くの英霊の事を決して、決して忘れずに、深く心に刻んで生きていくことが大切であるという事も学びました。そして、そのことを私の身近な人達やご縁のある人達に伝えていくこと、それが私にとっての最も大切に崇高な命の使い方ではないかと気付かせて頂きました。

この度は人生観、歴史観を大きく変えさせていただき素晴らしい慰霊訪問の旅に参加させて頂き、本当にありがとうございました。

温故知新・百聞不如一見

第二班副班長 湯下 雅俊 氏
ゆした まさとし
湯下 雅俊 氏

大山氏からの再三のお誘いと、小菅団長の「台湾の方の高齢を考えると、実情を知るには今年が最後のチャンスかも知れない」とのお言葉に、初めて参加した慰霊訪問の旅でした。

私には慰霊訪問の他に確かめたい事がありました。それは日本が統治していた韓国(朝鮮)と台湾が敗戦を境にどう変わったのかを比較することでした。小学校五年で京城(ソウル)から引揚げた私は、同窓会で三度韓国を訪ねました。訪問の度に日本統治時代の色合いを消しているのを見ました。一方、台湾は親日的で、日本統治時代の色合いを多く残していると聞いていました。それを自分で確かめたいと思ったのです。

海明禅寺に始まる各地での慰霊、史跡の見学を通して、親日感は私の想い

をはるかに越えるものでした。台湾の人達の、報恩、感謝の精神は、今の日本人が大いに学ぶべきだと思いました。韓国と比べてその違いの大きさはどこからくるのか。祖先を祀り、国を愛する教育が台湾人に行き届いているからではないでしょうか。台湾人は、自分の国に自信と誇りを持っているのを強く感じました。韓国と台湾の比較を考えて訪れた台湾でしたが、「台湾に学べ、日本人よ、誇りと自信をとり戻せ」の旅になりました。健康に留意し、第十九次訪問団に参加したいと思います。小菅団長はじめスタッフの皆様、ありがとうございました。

私には何ができるのだろうか。何をなすべきであらうか。

五班副班長 福田 章枝 氏
ふくだ あきえ
福田 章枝 氏

私は、第十八次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅(以下、慰霊訪問の旅)に初めて参加しました。私はかつて学生たちを台湾へ研修旅行の目的で引率したことがあり、三回ほど訪台していました。その時は、学生に研修旅行の目的を理解させるべく書店にある台湾に関することが述べられた書籍を探し買い込みました。学生たちにも強制的に台湾のことを調べさせ、グループ毎に発表させてから研修旅行に臨みました。今よりも若かったからできたのでしょう。その時の学生たちの反応として、台湾が五十年間日本の統治下にあったことはあまり認識していなかったので補足したことを思い出します。しかし、今思えば学生たちにとってはどんな効果があったのだろうかと疑問に思います。その研修

●ご協力ありがとうございます。

(株) 関 家 具

代表取締役社長 関 文彦

☎(0944)88-3515

〒831-0033 福岡県大川市幡保98-7

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価



社団法人 日本不動産鑑定協会正会員

(株)国際不動産鑑定所

代表取締役 山口 勝彦
不動産鑑定士

☎(092)483-3350

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル4階

旅行で訪れた先は、この慰霊訪問の旅で訪れたところはひとつもはいついていませんでした。つまり、私は初めて訪ねるところばかりであり、慰霊訪問の旅は全く違う印象となりました。一般的にどれほどたくさんの文献を読み込んで、まずその土地を実際に訪ねて、文化に触れ、現地の人々と話すなどしない限り理解することには限界があると言われていきます。まったくその通りでした。

訪問した先々で、慰霊式・献花式にあずかるなかで、唯一認識していたのは芝山巖の六士先生のことだけでした。しかし、それはほんの一部であり、団長の小菅先生やガイドの簡さんが説明して下さる内容をもとにその当時の様子を想像しながら日本統治時代における民政長官としての後藤新平の功績に触れました。時の日本政府が、先ず教育をもっとも重要な柱として取り組んだこと、少数民族にも遍く教育を重要柱として取り組んだことに私は日本人として誇りに思います。なお、「芝山巖神社は教育者の靖國神社」であり台湾教育の聖地と言われているそうです。

台湾の烏山頭ダムのごとは、灌漑や農業土木関連等の専門家ならば熟知しているでしょうが、一般の日本人は知らないと言え言い過ぎでしょうか。帰ってきて聞いてみましたが、私の周りの人はあまり知りませんでした。しかし、台湾では李登輝総統の政権下、「認識台湾」のもと、中学生の歴史教科書で日本統治下のことを含め客観的に編纂された歴史教育を行なっていること、また、その歴史教育によって台湾の若者が親日的であることなどを知り、未来を見つめることがいかに大切であるかを考えさせられました。韓国の朴大統領がおそらく本意ながら日本に千年の恨みを持ち続け、「日本を許さない」

と米国でメッセージを発信したことを思い出します。私は、この烏山頭ダムの設計技師であつた八田與一の銅像のレプリカを買いました。それは八田與一の魂に触れたような気がしてならなかったからです。

台湾の方々が台湾人として自立し、日本統治下の台湾の歴史を客観的に捉え、自信をもって次世代に伝えているこの国の在り方には私は深い感銘を受けます。この慰霊訪問の旅のすべての行程を通して、私には何ができるのだろうか、また、何をなすべきであろうかという課題を持つに至ったのです。この慰霊訪問の旅で最も感動的であつたのは、「台湾人に生まれながら、志願して従軍看護婦になられ、日本のために戦地に赴き、終戦後心ならずも中国人にさせられた陳恵美(日本名 東恵美子)氏。陳恵美氏の一身にして二つの国を生きた体験記」が日台合作で東京の展転社から平成十三年に出版されていた書籍を写真とサイン入りで著者の陳恵美氏から直接手に入れたことです。

この著書に「すみれの花の咲いた頃」と副題をつけ、陳恵美氏の文章を陳氏の了承のもと補筆と絵を描き綴られた太宰信明氏が語りかけていること—それは、今日の日本があるのは、先の大東亜戦争で「国家の存亡を賭けて日本民族が、欧米諸国民族と戦い、敗れたとはいえ三百万余の人々が命を散らし、守り抜いた国である(中略)更に、命を散らした日本民族の中には台湾籍の軍人軍属、三万有余名の方々が含まれている事実も知ってもらいたい」と述べています。台湾の方々は、現在もそのことを忘れることなく、台湾籍の軍人軍属が日本のために戦った英霊の慰霊祭を続けておられるのです。

台湾台日海交会による歓迎夕食会

の席上で、当時の軍人であつた方が戦時補償を認めて欲しいと述べられました。現在の我が国は、日中国交開始と同時に台湾との国交は途絶えました。この理由から日本政府は戦時補償を認めていないという立場であることを改めて知ることとなりました。そういう状況にありながらも英霊に感謝と慰霊を捧げつづけている台湾人が、私にはとても眩しくなりません。

感動の慰霊訪問の旅で得たもの

まつなが たつしろう
第一班津田班 松永 達始郎 氏

今回初めて参加させていただきましたが、十八年もの間「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」を企画され、続けてこられた小菅団長には敬服いたします。また、その意味も少しは理解できたように思います。更にこの四泊五日の旅を恙なく進められるよう準備された関係者の皆様に感謝と御礼を申し上げます。参加のきっかけは、慰霊訪問団顧問の横尾先生に台湾についてや、慰霊訪問の旅に参加しての話を伺っている内に行ってみようかという気にさせられ、その場で申し込んだのでした。台湾は親日であるという程度の認識で、歴史的な知識はほとんど持っていないかったというのが正直なところです。

私は、終戦の時は三歳で、父は軍用の鐵を製造する工場の技師で、兄も小児マヒを患い、我が家には戦地経験者もなく、悲惨な戦地の体験談等聞いたことはありませんでした。従って客観的な資料等でしか知る術もなく、教育も受けていません。

ところが、今回の旅で一変しました。毎年十一月二十五日に催される「宝覚

●ご協力ありがとうございます。

旅行代理店 (社)日本旅行業協会会員

新亞旅行社股分有限公司 福岡事務所

☎(092)451-7511

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-17-19安田第5ビル8階

総合印刷

大道印刷(株)

☎(092)582-0927

〒816-0873
春日市日の出町6-23

寺」での慰霊祭に参列するのが最大の目的ではありますが、のみならず「海明禅寺」「鎮安堂飛虎將軍廟」、烏山頭ダム、八田與一・外代樹ご夫妻墓所、八田與一記念公園、「富安宮」、台湾の靖國神社と言われる「濟化宮」、芝山巖・六士先生の墓、二二八記念公園等々、数多くの霊場があり、日本人を祀っている事実を目の当たりにし、恥かしながら驚嘆した次第です。行く先々で国歌斉唱、献花、焼香を行うのですが、中でも国歌斉唱の時、なぜか咽て途中で歌えず涙が溢れ密かに目頭を押さえるという、めったにない経験もしました。

日本人でありたかった台湾人、今なお台湾の為に功績を残した日本人に恩義を感じ、祀り、敬礼している台湾の人たちに敬意を表します。

ある日、日本教育再生機構顧問の東城百合子氏が、「日本人の留学生は、自分の国の歴史も知らず、祖国を愛することも知らない」と驚く外国人に巡り会い、「それは、我が国の伝統の歴史は忘却され、愛国心も民族の誇りも忘れた日本人が、続々と育っていることだ」と嘆いている記事を読みました。正に真実の歴史や愛国精神を教育していかなければ、今後の日本は危ぶまれると言っても過言ではないでしょう。

国として、国民としてどうあるべきか、どうして行かなければならないか真剣に考えなければならぬ時だと、今回の慰霊訪問の旅で改めて考えさせられました。

ての行程を細かく記録として残すというのが私の最大の目的でした。

慰霊訪問に参加されている方々のお顔が徐々に記憶に刻まれ始めてきた頃、自分も団員でもある、ということ思い出しました。慰霊訪問の旅は足早に駆け抜け、それでも記録することに集中していたあまり、前半は、その内容や意味を深く考えるところまで至りませんでした。私自身、常日頃から考えていた「平和」の考え方として、個から発するものと全から発するものがあるとするならば、この訪問は、「国体」という全から発する考えを基にしています。日本人として、日本国民として、国旗を掲揚し、国歌を歌い、当時の人たちが万感の思いを込めて歌ったであろう「海ゆかば」を歌い慰霊するという、これまで私が生きてきた中で、僅かながらに聞く機会があっただけの存在だったこういう環境に終日身を置いた初めての経験で、とても意義深い旅となりました。

台湾での戦没者慰霊自体、これまで何度、自分自身のこととして、また、日本や日本人として考えたことがあったでしょうか。今回、これまで私自身にとっては遠い話だった歴史の事実が目の前で繰り広げられた思いがいたしました。とても興味深く、正しく歴史を知り、受け止め、伝えていくことの大切さを、改めて知った思いがいたしました。

また、現在は台湾人ではあるものの、当時は日本の統治下であり、日本は台湾の人たちに対して日本人として、日本国民と同じように教育や福祉の制度を敷いたことなどを、現地の方々から聞くと、教科書や人づてに聞く話しより、更に真実として伝わってきました。

台湾人が日本兵として出兵したこと、アメリカ人が恐れた、怖いもの知らずの日本人は、実は台湾人だったことと、台

湾の人たちの勇敢さと忠誠心。今なお日本に対して親しみを感じてくれている台湾人のみなさん。多くの日本人が、台湾は親日という情報は知っていても、なぜ親日なのか、その感情がどこからきているのかは知らないか、もしくは深く調べようとするのは無いのかもしれません。それでも、台湾では毎日、日本人の功績が事業やテレビなどで讃えられています。

今回の旅は、これまで私が仕事を通して考えてきたことを、もう一度改めて、確信へと背中を押してくれるものとなりました。私は仕事で映像制作をしていますが、映像は広報宣伝に使われることが多いのですが、同時に記録としての存在意義もあると考えています。最近は記録のお仕事より、一過性の広報宣伝用の映像がたくさん出回るようになりました。また多くの人が気軽に映像を制作する時代になりました。

今回の旅を通して、貴重なお話を、その場に行った人だけが共有するだけでなく、その場に行けなかった人たちにも共有してもらえよう台湾の人たちの声を記録することも、とても大切なことだと考えています。

今回の旅の間に、小菅団長から公私共に大切なことは「まごころ」であると伺った時に、まさに、今の時代に大切なのは本当にそうなんだと、痛感いたしました。プライベートは、自分自身と人の付き合いになりますので、心を優先してお付き合いすることが多いのですが、お仕事となると利害関係が生まれ、それがまごころから発せられた思いなのか、わからなくなる時があります。また、納期に追われ焦っている時も余裕がなくなり、人を思い遣ることができなくなっていることもあります。そんな時、「まごころ」という言葉を自分に語りかけてみよ

過去の歴史を知り、 未来の歴史を創る

おかね ともみ
第一班津田班 岡根 智美氏

今回は団員として皆さんと同行し、全

●ご協力ありがとうございます。

(有)濱崎理想瓦製造所

代表取締役 山下 康仁

☎(092)201-4010

〒891-0101 鹿児島市五ヶ別府町3786-12

(株)石村萬盛堂

代表取締役 石村 善悟

☎(092)291-5090

〒812-0028
福岡市博多区須崎町2-1

うと思います。そして、これから毎日、いかに思い遣りをもった行動ができるか、考える時間が持てるように努力してみようと思います。これまで知っているようで知らなかった過去の歴史を、今回の慰霊訪問のようなかたちで、実際に現地に向って、その時代を経験されてきた方々からお話を伺うことができるのは、本当に貴重な体験でした。ありがとうございました。

台湾で神様になった 日本人巡査を訪ねて

ねのき あきのり
根之本 昭憲氏
第四班倉田班

福岡県警在職中、公共工事に絡み執拗に不当要求する輩に、毅然と立ち向かう松依建設会長と久々お会いした時、会長は、自身の事より開口一番「日本人の巡査が台湾で神様に祀られている」と、逆に私の職務を励ます話や、台湾慰霊訪問団の存在を知らせられた。しかし、私は来る日も燃え盛る事件現場から離れる訳にもいかず、月日は流れ、やがて警察を定年退職することになった。今、自由な身になり、今回初めて第十八次訪問団に参加出来たが、警察の垢が身に染み付いた私は、旅のプログラムの中でもやはり森川巡査の「富安宮」を、一刻も早くこの目で確かめたかった。そして当日、小菅団長からお宮建立の歴史を聞きながら、自分なりにその施設を想像して森川巡査との対面を待ちわびた。

パンパンパンと、けたたましい爆竹が先ず私たち一行を迎えてくれ、眼前には荘厳な富安宮の建物が迫り、テレビ局まで動員して出迎えてくれた地域の人々など、すべて私の想像を遥かに超える場面に圧倒された。建物に入り、

森川巡査の制服姿の木造とその尊称の「義愛公」の文字を見た瞬間、金縛りのような緊張感が走り、「しまった、現役の時に来るべきだった」と、後悔の念にかられた。

改めて、お宮に刻む文字図形に食いつき、歓迎の人々の屈託のない笑顔を見た時、日本の警察学校では、巡査の卵に六法を紐解き、厳しい点検教練などが一から教育されているものの、何かもう一つ精神論が欲しい気がした。

この宮には、警察官の魂が宿っている。無言の教えが肌で感じられる。今現職の後輩たちが一人でも多くこの地を訪れ、森川巡査の御神像を拝むことが出来たなら、治安を守る警察官の心の礎になると確信した。富安宮に手を合わせて頂いた訪問団の皆様に感謝し、これから私は訪問団を知らせるための警察署廻りで忙しくなる。

「誠を感じ合う」慰霊訪問

とみた しょういち
第五班永濱班 富田 昇一氏
とみた たかこ
富田 隆子氏

今回、台湾慰霊訪問の旅に参加させて戴き、実に素晴らしく、有意義な慰霊の五日間を親愛なる台湾の地で過ごすことができましたことに心より感謝いたします。

今回の旅を通して自分なりに考えていました標語は「誠を感じ合う」という言葉でした。誠とは「相手の人の為に何か尽くそうとする心・精神」とであると考えますが、私たちにとっては素直にまだまだ出来そうもない標語と思っている所です。

この旅では、神社・仏閣、遺蹟、そして懇親会場の各所で台湾の人たちと心の奥底から肝胆相照らす交流を通して

感動、歓喜して「誠を感じ合う」チャンスにしたいという思いでした。訪問先の各慰霊地で、台湾の人たちの「誠」を感じることが出来ました。大東亜戦争で台湾で亡くなられた縁のある日本人達を、台湾の方々が神様としてお祀りされて長期間に亘って御供養、御鎮魂を継続されていることに大変感動すると共に、感謝の念が湧いて来るのを禁じ得ませんでした。さらに、慰霊等の訪問先で、関係者の方々から心のこもったご接待をして頂いたことや、たくさんのお土産を頂戴したこと等、忘れることの出来ない経験でもありました。また、日本が台湾を統治する時代に台湾に渡り、台湾の発展と台湾の人々の為に非常に困難な環境や状況にも拘らず、全身全霊を捧げられて活躍なされた真に素晴らしい同胞がおられましたことに、私たち日本人の誇りであると言う強い感じがしました。そして、その台湾に貢献された日本人を現地の皆様が自国民と同じように今日まで綿々とお祀りや慰霊をなされておられることに、台湾の人々の誠の心を垣間見た気持ちが心の内に広がりました。台湾の方々と懇親の交流会では、殊に「誠を感じ合う」邂逅になりました。全く面識のない人たちと何十年間の知己のようにコミュニケーションが出来ました。いずれの交流会でもお互いに相手を思い遣る密度の濃い瞬間、瞬間を心に把持できたと感じました。一方で、日本の訪問団の皆様方とも、色んな所、様々な状況を通じて、心底から交流が出来ましたことは、望外の喜びでもありました。

今回の慰霊訪問の全期間を通じて、間違いなく「誠を感じ合う」旅を達成出来たことに感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会

会長 重富 剛克

☎(0820)58-1111

〒742-1111 山口県熊毛郡平生町佐賀鳩ヶ峯2-77光輝病院内

(有) 悠 悠

代表取締役 徳山 世雄

☎(092)623-2667

〒812-0851
福岡市博多区青木1-11-27

子供の頃に感じていた 日本があった

つるおか くにひこ
第五班永演班 鶴岡 邦彦 氏

少年の頃感じていた日本人の心を見失ってからどのくらい経ったのでしょうか。あのころは、父親も親戚の伯父たちもみな戦前の教育を受け、従軍も経験した人ばかりでした。その為、私たちに対する教育もそれなりに厳しいものであったと思います。ところが、私たちが中学・高校生になったころには今のよう日本人の誇りを失う教育しか受けさせてもらえませんでした。間違えた自由であり、間違えた人権です。そのため、昔を懐かしく思い今の世の中に諦めさえ感じていたのです。そんなとき、この慰霊訪問団の存在を知り「海の彼方のニッポンを訪ねて」の言葉に魅かれたのです。

実際に参加させていただいて、言葉で感じた以上の大きな感動をいただきました。本当に今の日本で失われてしまった、私たちが子供のころに感じていた日本があったのです。そして、人としてのやさしさがありました。それが日本でないことは多少悔しく思いますが、現実に存在することは日本人だけでなく、台湾の皆さんとともに喜ぶべきことだと思います。これからは、この感動を自分だけのものとするのではなく、日本国内にいる日本人のような若者たちが本当の日本人となれるよう、微力ながらお役に立てればと思います。最後に、何の知識もなかったと言われたとおりに動くだけの私のような者を引率していただき、色々とお世話いただきました団長をはじめ団の役員の方々の皆さま、スタッフの皆さまに心よりお礼申し上げます。また、この慰霊訪問の旅がこれからも盛会に続き

ますことをお祈りいたします。

これからも慰霊の旅に参加を

ほんま じゅんこ
第五班永演班 本間 潤子 氏

十二月も半ばを過ぎて寒さも一層厳しくなってきました。佐渡は今日も朝から雪が降っていて、台湾の暑い日々を懐かしく思い出しています。今年も台湾各地に祀られた英霊顕彰行事や台湾の皆様とカラオケ等、親密な交流に参加させていただきまして、ありがとうございました。また、八田與一氏が設計・指揮して完成したダムや殉工碑、記念公園等初めて見学して感銘を受けました。日本は、台湾を植民地にして搾取した等の自虐史観の教育を受けて来たので、台湾の農業振興に貢献した事業を目の前にみて嬉しく思いました。近年、修学旅行で台湾に来る学校が多くなっているようですが、この大正十年に着工して昭和五年に完成した烏山頭ダムは、近代日本史の歴史教育にもなって有益だと思います。日本の若い人達が、大勢台湾へ来て、台湾の人達と親善友好関係を深め、経済関係も発展させていって欲しいと思いました。

また、二十六日には二二八事件の犠牲者を祀る二二八記念公園にお参りました。日本が昭和二十年八月十五日に敗戦して撤退した後、代わって中国大陸から蒋介石の軍隊が入って来て統治したものの、略奪暴行がひどく、本省人の民衆が蜂起して抵抗した事件で、国民党政府は軍隊で徹底的に鎮圧し、多くの優れた知識人や前途有為な若者達が無残に殺害され、約二万余人を数えると言われています。それ以来三十七年も戒厳令を続けて人々の自由な

行動を制限し続けたそうですが、李登輝氏が総統になってから戒厳令が解除され、民主化が進み、経済的にも発展して一党独裁を廃し選挙で総統が選ばれるようになりました。今年、政権交代が起こり民進党の蔡英文女史が総統になられたのは嬉しい限りです。中国からの圧力が強いそうですが、耐えて台湾を発展させて行きたいと心から願っています。私は、佐渡出身の本間雅晴將軍作詞の『台湾軍の歌』を今も歌い継いで下さっている台湾の人達に感謝しております。これからも慰霊の旅に参加させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

幻の如く蝶が舞った烏山頭ダム

はやし まさこ
第五班永演班 林 雅子 氏

私は、第十八日の日華(台)親善友好慰霊訪問の旅(以下、慰霊訪問の旅)に初めて参加させていただきました。私は福岡市在住で台湾台北市の出身です。この慰霊訪問の旅は私にとって何ものにも代え難いものとなりました。総勢五十名の慰霊訪問団員と、また、四泊五日の行程を通して何よりも小菅団長をはじめ皆様と出会い、知り合ったこと、現地台湾人との家族・兄弟交流の中でたくさんの方々と巡り会ったことは、私にとって何よりの大きな恵みと感謝であります。

台南の烏山頭ダムでは、このダムの建設工事中に命を落とした方々の殉工碑の御霊に向かって献花ならびに黙禱を捧げました。丁度その頃、幻のごとく蝶が私たちの周りを旋回していったのを見て、このダムの設計技師であった八田與一の霊ではないかと一同よろ

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設(株)

取締役会長 松俵 義博

☎(0948)42-1033

〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎1554-10

台灣台日海交會

會長 周 良仁

☎(04)2529-5350

〒420-0050

台中市豐原區育英路24巷2號5樓

こびにつつまれました。

さらに、台湾の靖國神社といわれている濟化宮では、現在も台湾の人々によって御霊が守られ続けています。私は、ここを訪れて涙せずにはいませんでした。

この慰霊訪問の旅に本間雅晴中将の縁戚にあたる本間潤子氏が参加されており、その方と行動を共にして、私は深い感動を受けました。人生の先輩であられる本間潤子氏は、長い階段も全く苦にすることなく、自分の荷物もしっかり自分で持つその姿勢が、私にとっては今後の私の師と仰いでいきたいと思っています。

改めまして、小菅団長をはじめ団員の皆様と台湾の友にお世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。

自分の心のあり方を見つめる旅

やまぐち まもる
第六班沼田班 山口 衛氏

今回の台湾慰霊訪問の旅は、私にとって自分の心のあり方を見つめるとしても良い機会となり、言葉には言い尽くせないものとなりました。小菅団長の心配りの深さと団員の皆様の真剣な態度には大変感動し、また学ぶことは大きなものとなりました。

一、心の深め方

台湾の元日本兵の方々の慰霊を通じて台湾に伝わる伝統(人を思う心)の深さを学びました。それは、全ての日本人が学ぶべきものと思いました。

二、八田與一氏の貢献と合理性(輪作等)

三、森川巡査の純情と、それを支え、称える台湾の方々の真心

これは今日の日本ではとても考えら

れないことで、深く感激しました。

四、二・二八事件の願い(台湾独立運動への気運)の大事さ

五、沼田真清氏の親孝行のスバラシサ
彼とは長く倫理運動をしておりますが、本当に言行一致そのもので、とてもスバラシイと思いました。

この他にも台湾経済の逞しさや、台湾慰霊訪問団の団員の皆様の勉強の深さにも、つくづく感心しました。今後このようなスバラシイ旅への参加を一人でも多くの方に勧めたいと思っています。これからの日本を考える場合でも、本当に数多くのヒントが得られるからです。

今回の台湾慰霊訪問の旅での小菅団長の心の深さ、気配りに加え、団員の皆さんの真剣な態度に重ねて感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

子供の頃感じていた 日本があった

おおいし けん
第六班沼田班 大石 憲氏

私は今回、二泊三日のBプランで参加させていただきました。初めての参加であり、初めての海外旅行ということもあり、期待と同時に緊張感を抱きながら出発いたしました。桃園空港に到着した時には、台湾の土を初めて踏んだ喜びと感慨があふれてきました。

十一月二十四日の夜には台湾台日海交会主催の歓迎夕食会が行われ、会場に入ると台湾の方々が大きな拍手で出迎えて下さいました。日本の軍歌を声高らかに意気揚々と歌われるお姿は、かつての日本統治時代のことを懐かしく思い出しておられる様子が、日本

国民であったことを大変誇りに思っておられることが、強く伝わってきました。台湾の八十歳代以上の方々とお話をしておりますと日本語が大変お上手で、日本人の八十歳代から上の年代の方々と似通ったお人柄、古来から受け継がれてきた日本人らしさというものを、まるで日本の方々と接しているかのような錯覚を起すほどでした。夕食会は終始、和気藹々とした雰囲気、笑い声が絶えず大盛況で、日本と台湾の深い絆を実感したひと時でした。

十一月二十五日の宝覺寺での慰霊祭は、今回の旅の中でも最も主要な行事でした。日本人と台湾人のどちらも日本軍人として国のために戦って散っていく方々の御霊を慰霊することは大変重要なことで、次世代に受け継がれ、今後も末永く続けていかなければならない事であると認識いたしました。

同日午後には台湾の靖國神社とやわれています濟化宮に行きましたが、ご英霊のお位牌のあまりに数の多さに驚きました。こんなにたくさんの方々が戦地に赴かれたのかという思いと、現在でも大切にお祀りをしておられることに深く感動し、胸が熱くなりました。

十一月二十六日には台北の芝山公園の六士先生墓所と学務官僚遭難之碑に行きましたが、遭難された六人の先生方ご自身の犠牲を省みずに台湾の教育の近代化のために命がけで尽くされたことを思いますと、まずこのことを知らない日本の方々に伝えていかなければという思いになりました。まさに台湾統治というのは、教育をはじめすべてにおいて、本当に命がけであったということだと感じました。

●ご協力ありがとうございます。

(株) 中部鋼材

取締役会長 富原 浩

☎(098)938-1318

〒904-0012 沖縄県沖縄市室川2-6-7

光志興産有限会社

代表取締役 松俵 茂子

☎(0948)42-6660

〒820-0203 福岡県嘉麻市平607-1

日華(台)親善友好慰霊訪問団

台湾支部長 黄 明 山

〒830-0092 高雄市鳳山區南正一路2巷11弄5號

出会いと行動が 事実を知ることになる

しまた けんぞう
第六班沼田班 嶋田 謙三 氏

すべては九州建設専門学院に入学し、小菅団長との出会いから始まりました。一つの出会いが縁となり多くの出会いに発展して行く現実を実感しております。出会いが有り、その出会いを行動にかえ、それを永遠に繰り返して行く、その時にいろんな可能性が実現されて行く事に感動させられます。

今回の旅は私の新たな一ページの始まりになりました。人生六十年生きて来て殆ど知らなかった事ばかりでした。宝覺寺の日本人墓地での慰霊、濟化宮でのお参り、林政徳様との出会い、闘病中の張蕊さんのお見舞い、王春茂様、孫傳松様、等々、沢山の出会いがありました。また、知らされていない事実を沢山知る事が出来ました。

しかし、お会いした皆さんは高齢で年を重ねるたびに出会いが減って行くのかと思うと、これからはもっと日台両国で若い人に伝え、参加を募って行かなければいけないと思いました。

平成二十八年は、九州不動産専門学院グループ同窓会「九栄会」に入会してから、国旗掲揚と国歌斉唱と今まで殆どする事が無かった事を一年間で何十回とすることが出来、日本人としての愛国心と自覚が甦りました。

この慰霊訪問の旅が日本中に知れ渡り、沢山の人がこの事に気付き、慰霊を通しての交流が永遠に続けられることを願っています。

安らぎと晴れ晴れとした 思いを齎らした旅

つるい ひろみち
第六班沼田班 鶴井 博理 氏

お恥ずかしいことですが、このような趣旨の訪問団があることを今回参加して、初めて知りました。少し考えてみれば、日本軍として戦った方がいらしたのなら当然戦死された方もいらっしゃるわけですが、それでも日本ではそのようなことが殆ど意識されることが無かったということは、私も含め今の日本が筋を通すということに無頓着になってしまったことの表れと思われまます。

台湾に関しては、世界でも親日的な国であること、そしてその理由が、我々の先人が台湾の発展に尽くしたことをある程度は本や映画から知識としては漠然とは知っていたこともあり、台湾には何度か行っていました。日教組によるかなり偏った教育もある程度は意識しており、自分なりに、真実を描いたと思われる本なども読んでいたのですが、それでも心のどこかに負い目のようなものがあり、それを埋め合わせるような真実があつて台湾への興味が強かったのかもしれません。

事情は悉には知りませんでしたが、台湾の方々に申し訳ないと感じていたことが以前から二つほどありました。一つは、原台湾人日本軍人が軍人恩給の給付を求めて裁判を起こしたのですが、最高裁まで行って結局日本としては給付を認めない、ということになりました。小菅団長からお伺いした話では、実は国家間での補償はしていたのですが、国民党政権が元日本軍人の方々に給付をしなかったとの事でした。もう一つは、日中国交回復が行われた時に

台湾と断交してしまったことです。蒋介石総統に関しては様々な見方がありますが、台湾の方々に対しての重大な裏切りであったことは釈明できないことです。また統治の初めは心ならずも力を用いて治めなくてはならないこともあったでしょう。

それにも拘らず、日本に対しての熱烈な好意を抱き続けてくださり、また、東日本大震災の時には信じられないほど多額の義捐金をお送り下さったことなどは、台湾の方々の情誼の厚さとともに、先人達が文字通り命を賭して台湾を愛し、その発展に尽くしたことの証なのでしょう。

私は遅れて合流したのですが、それでも参加した行事の悉く、そして学習資料の一つ一つが入念に準備されたものであることが伺われ、小菅団長を初めとしたスタッフの方々の熱意と使命感がひしひしと伝わってくる気が致しました。

今回、筋を通すという意義に則った訪台ができたことは私の中でも、安らぎと晴れ晴れとした思いを齎して下さいました。おそらく中国と日本との関係は今後ますます厳しさを増していくことが予想されますが、蔡英文氏が新総統に選出されたことを天の配材として、日本と台湾とが手を相携えてともに発展していくことが遺された者の務めでは、と思います。



●ご協力ありがとうございます。

(有)エースコーポレーション

代表取締役 沼田 真清

☎(03)3408-0523

〒107-0061 東京都港区北青山2-7-18

演奏会企画・音楽教室
カラオケCD/DVD制作

郭一男音楽社

☎(06)214-2347

〒700-0075

臺南市中西區永福路一段66號

❖ 公的支援なき公的事業に国民の皆様のご理解とご支援を ❖

台湾特別講演会を開催するに当たり物心両面にわたって
多大なご支援を戴いた皆様に心から御礼申し上げます。

《特別協賛 協賛 広告協賛 後援》

台北駐福岡経済文化辦事處 九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会) 山口県日台交流協会 松俵建設(株)
(株)関家具 (株)栄電舎 (株)中部鋼材 (株)エースコーポレーション (有)濱崎理想瓦製造所 (株)日本語アカデ
ミー日本語研究所 新亞旅行社 九州不動産専門学院グループ
福岡教育連盟 美祢市観光商工部 (株)H A S (株)国際不動産鑑定所 (株)石村萬盛堂 (有)悠悠
郭一男音楽社 歌姫 光志興産(有) (有)PiPaRa-ピパ
産経新聞九州総局 (公財)オイスカ西日本研修センター 福岡市議会日台友好議員連盟 日台友好筑紫野市議会議
員連盟 日本会議地方議員連盟 日本会議福岡 台湾在日福岡留学生会 福岡縣神社廳 福岡縣護國神社 英靈に
こたえる会福岡県本部 福岡県海友会 (一社)福岡県郷友連盟 (公財)水交会福岡支部 甲飛喇叭隊第11分隊 大
野城市国際交流協会 福岡県中華總會 九州台日文化交流会 (一社)九州日台経済文化交流院 日台交流をすすめ
る会 山口県日台文化経済交流会 福岡県モラロジー協議会 日本協議会福岡県支部 日本青年協議会 教育研究
会未来 スタジオ日本日曜討論番組を支える会 日本時事評論社 エバー航空 紅乙女酒造 フクニチ住宅新聞
東海新報 岩屋城史の会

《慰霊祭主催団体 現地協力 交流団体》

台中・台湾台日海交會 台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 恆春・潮音寺 台南・海尾朝皇宮 台南・
飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟化宮 樹林・海明禪寺 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台
南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園) 高雄・臺灣前國軍退役軍人暨遺族協會
台北・台日文化經濟協會 台中・台灣海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

《表敬訪問》

台北・中華民國總統府 台北・中華民國外交部 高雄・高雄市政府 台中・台中市政府 台北・國民革命忠烈祠

《個人協力》

蘇 怡宣	永濱浩之	森岡寛治	石川秀久	吉弘浅子	吉弘逸子	坂本文比古	市来徹夫
竹中 健	稲貝稔夫	西川京子	小牧徹志	鶴井博理	矢野幸治郎	牛房良嗣	湯下雅俊
東 旭秀	山本駿一	中島公明	木下 修	真栄田 強	福田章枝	江島一至	兵動和郎
山崎嘉明	西依有一	江崎君公	永倉遵五郎	道崎貴子	篠原 隆	津田建一	高橋幸久
高間光廣	林 克紀	佐護美和子	塩山敏彦	船津邦彦	富田昇一	倉田光男	藤原 雄
青木繁政	武田真理子	佐藤啓光	森 敬恵	田中孝夫	藤田達男	淵 幸代	田中足穂
大森謙一郎	山室俊武	山本 正	秦 友喜	川野威朗	岩本宣善	原 信彦	松永達始郎
永濱武司	廣瀬和彦	中山 茂	富田隆子	上野和彦	山下修剛	原田泰宏	石原祐教
福田昂明	金子孝夫	永留照子	岡田敏江	大石 憲	森川 洋	吉浦 紘一	佐々木朗子
庭木正二郎	匿名(30万円)	匿名(10万円)	(順不同・敬称略)				

《企画・運営》 第15回台湾特別講演会実行委員会

●ご協力ありがとうございます。

(株) 栄 電 舎

取締役 飯 笹 実

☎(0942)38-1211

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町南都留2348-8

カラオケスナックバー

雨夜花・台湾軍の歌・青い山脈・ラバウル小唄等

歌 姫

☎(06)213-3049

携帯：(ママ冰冰)0932-704-3049

〒700-0075

臺南市中西區永福路一段 66 號

どなたでもご参加できます！

第19次 台湾慰霊訪問の旅 参加者募集のお知らせ

- 目的 ①大東亜戦争で散華された台湾人同胞三万三千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列(台中・宝覺寺)
②領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流
③御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問
④中華民国外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問
- 参加資格 日本国籍を有する日本人であること(国籍、民族、人種等が異なる場合はご相談下さい)
- 訪問日 [Aプラン] 平成29年11月22日(水)～26日(日)までの4泊5日間
[Bプラン] 平成29年11月24日(金)～26日(日)までの2泊3日間
- 旅行代金 お1人様 [Aプラン]145,000円 [Bプラン]105,000円
※東京出発の場合や他の空港から出発の場合には差額が発生しますのでご了承下さい。
※参加費は、旅行費、現地対策費、祭礼交流費、記録費によって構成されています。
旅行費／旅費、食費、宿泊費他
現地対策費／第19次慰霊訪問事業に関わる通信費、贈答品、手土産他
祭礼交流費／慰霊祭主催団体への玉串料、慰霊地あてのご芳志、歓迎会主催団体への会費(謝礼)
記録費／記念アルバム、記念DVD、記念報告集(ライセンスメイト)他
※慰霊や交流のためのお線香や手土産等は事務局で準備します。
※上記の旅行代金については消費税が10%になった段階で改訂させていただきます。
《ご注意》この旅行は 海の彼方のニッポンを訪ねて行く慰霊と交流の旅 です。一般のグルメ旅行や趣味の旅行とは違いますので予めご承知おき下さいますようお願い申し上げます。
- 募集人員 30名
- 食事条件 [Aプラン]朝4回・昼5回・夕4回付 [Bプラン] 朝2回・昼3回・夕2回付
- 利用ホテル 華園大飯店、全国大飯店、慶泰大飯店 等の有名ホテル(予定)
- 申込締切日 平成29年6月30日(金)
- 訪問先 台湾 ※台湾は世界一の親日国です。
- 旅程 [第19次台湾慰霊訪問の旅 予定訪問先](予定)
- 1日目 11月22日 ①中華民国外交部表敬訪問～左營～②交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)/高雄泊
- 2日目 11月23日 ③保安堂(慰霊式)～④潮音寺(慰霊式)～⑤鵝鑾鼻岬(献花式)～⑥東龍宮(慰霊式)～台南/台南泊
- 3日目 11月24日 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式)～⑧富安宮(慰霊式)～⑨鹽水國民小學⇒八角樓～
⑩古跡後壁黃家～⑪交歓会(慰霊団主催)/台中泊
- 4日目 11月25日 ⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒靈安故郷碑(慰霊祭)～⑬交歓会(台灣台日海交會)～
⑭白冷圳記念公園～⑮南天山濟化宮(献花式)～⑯交歓会(黄文雄先生)/台北泊
- 5日目 11月26日 ⑰芝山公園⇒六士先生墓所・学務官僚遭難之碑(献花式)～⑱交歓会(台日文化經濟協會)～⑲桃園神社
※但し、スケジュールは現在の予定です。第19次の訪問先については現在調整中です。
訪問先の予定や交通機関等の都合により変更になることもございますので予めご了承下さい。
- 贈呈 ①「日華(台)親善友好慰霊訪問団」団員名刺(1セット100枚)
※両国旗がデザインされた素晴らしいものです。訪問先での交流にご活用下さい。
②慰霊訪問の旅 記念アルバム(1冊)
③慰霊訪問の旅 記念DVD(5枚組)

添乗員が
福岡空港より
同行します

●ご協力ありがとうございます。

日本語アカデミー日本語研究所

代表取締役 山内 敏秀

☎(092)934-3727

〒811-2104 福岡県糟屋郡宇美町井野31-11

(有)PiPaRa -ピパラ-

代表取締役 森 真一

☎(090)8668-6782

〒816-0855 春日市天神山4-27

パシフィックキャピタルジャパン(株)

代表取締役 新開 崇司

☎(092)282-8628

〒812-0024 福岡市博多区網場町4-11号

知られざる「神蹟の遺跡」

海明禪寺～富田直亮将軍と白団(ぱいだん)

台北市と桃園市のほぼ中間のところに樹林市がある。そこで下車して北に向かうと、高台の上に煌びやかなお寺が見えてくる。「海明禪寺」である。その寺のシンボルは八角の7階建の塔である。その塔の中に富田直亮(とみななおすけ)日本帝國陸軍少将、後に中華民國陸軍上將となった人の遺骨が祀られている。

かつて日本陸軍の将官であった富田少将がなぜ旧敵国である中華民國の大將に榮進し、台湾で永遠の眠りにについているのであろうか。

昭和24年(1949)7月のある日、東京の国立第一病院に入院中の元支那派遣軍總司令部參謀、岡村寧次(おかむらやすじ)大將の病床に、中華民國の蔣介石總統から一通の親書が届けられた。

その書簡の内容は「国共(国府軍・共產軍)内戦において連戦連敗中の国府軍の窮状を訴え、大陸から台湾に部隊を撤退させて軍の再

建を図るつもりであるが、その再建を支援するために、帝國陸軍の軍人同志の協力を得たい」というもので、これこそがその後20年も続く白団活動の原点となったのである。岡村將軍は旧部下の人達と協議し、「関東軍はソ連に抑留されてまだ帰っていないぞ。南方總軍も帰国はまだ完了していない。最も懸念された支那大陸の我々が、最も恵まれた状態で帰れたのは夢のようだ。」そのとき岡村大將は「この恩義に酬いるため、一人でも多くの元軍人に参加してもらいたい。全責任は俺が持つ」と強い決意をもって、その要請に応ずるよう決心した。

この岡村大將の決意を体して秘密裡に人選がすすめられ、同年末までに第1次要員19名(解団までの20年で83名)が同志として血盟を結んだ。白団の団員成員条件は、身体健康者、陸軍大学卒業者、作戦経験者、反共意思の堅い者、人格高潔

であり、その任務は在台國軍訓練であった。団長には岡村大將の信頼厚い富田直亮少将(終戦時、南支第23軍參謀長)が就任した。白団という秘匿名称は、富田少將の化名(ホアミン=変名)「白鴻亮」の頭文字をとって名づけられたものであるが、「共產軍(紅軍)に対抗する軍組織の指導者」という意味も有するといわれている。

白団の団長であった富田少將は、白団解散後も台湾に居を構え、中華民國國軍の尊師・顧問として尊信を受けていたが、昭和54年4月、日本に帰国中に発病し不歸の客となった。

遺骨の一部が樹林の海明禪寺に納められたことは冒頭に述べたが、それは富田少將の遺言だった。名利を求めることなく、黙々として日華親善推進のために挺身した白団の最高責任者にふさわしい終局の身の処し方であった。



黙祷を捧げる訪問団員



富田直亮将軍の遺影と遺骨



中華民國外交部・ 台南市政府(市役所)

表敬訪問

平成28年11月22日(火)、海明禅寺で富田直亮将軍の慰霊式を終え一行は、中華民國外交部を表敬訪問しました。

出迎えて下さったのは蔡明耀亞東関係協会秘書長でした。歓迎の挨拶で、蔡秘書長は「東アジアの平和と安定のためには台日の関係

強化が重要であること、いわゆる日本語世代が高齢化していることが大きな懸念であり、今後は若い世代の交流を強めていきたい」と強調されました。

また小菅団長も答礼の挨拶で、後藤新平の「財を遺すは下 事業を遺すは中 人を遺すは上なり」

という言葉引用して、後継者の育成が喫緊の課題だと応じられました。その後、質疑応答と役員の紹介があり、最後に全員の名刺交換で1時間弱の表敬訪問を終えました。帰り際、外交部の玄関前で蔡秘書長も交えて記念写真を撮り外交部を後にしました。



台南市政府国際関係科の王祉勻氏等の出迎え



記念品の贈呈



歓迎の挨拶をする蔡秘書長



蔡明耀亞東関係協会秘書長を交えての記念撮影

11月23日(水)、成功大学を訪問しました。大学に着くと国際事務処の王維聰教授等が出迎えて下さり、蔡侑樺氏に学内を案内していただきました。

ここは、原臺歩兵第2連隊本部跡で、本部、兵舎、衛戍病院や病棟が当時のまま台湾の文化財として遺されており、現在も大学の施設として使われています。宮庭には、昭和天皇が摂政の宮の時に行啓せられて御手植えされた記念樹の榕樹(ガジュマル)が90余年の歳月を経て成長を続け、大きく枝を広げ、今や戦友会の心の絆となり、成功大学のシンボルとなっています。

兵舎跡等の見学を終えた一行

は、ここで二手に分かれることになりました。本隊は飛虎將軍廟へ、一方、小菅団長率いる別動隊の5名は約2時間かけて枋寮の東龍宮へ向かいました。

東龍宮は第15次の訪問の際に拝庭の増築工事の起工式を行い、このほど完成し、地元の和風芸術文化季に合わせ落慶式を行うことになりました。是非この時に参列して欲しいと堂守の石羅界さんからの要望があり、急遽出席させていただくことになりました。

飛虎將軍廟に着くと、台南市政府国際関係科の王祉勻さん等が待っておられました。

本来は台南市政府を表敬訪問す

る計画でしたが、面会予定の賴清徳市長の代理、許淑芬報道部長も急な公務で出席が難しくなり、王さん等がわざわざ、飛虎將軍廟にお見えになりました。早速、副団長の大山猛氏、常任顧問の松俵義博氏が名刺交換をして記念品の贈呈を行い、表敬訪問に代えました。

その後、廟の作法に従って慰霊式が斎行され、王祉勻さん等と交え記念撮影を行い、爆竹の激しく鳴り響く中、黄支部長の待つ高雄へ向け出発しました。

第18次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会

平成28年度「第18次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の結団式・壮行会には、戎義俊・台北駐福岡經濟文化辦事處處長、李蕙珊副領事、古川和則・美祢市台北觀光事務所所長、施光恒・九州大学大学院准教授らの来賓をはじめ、慰霊訪問団の役員、旅の参加者ら約60人が参集、慰霊訪問の旅の成功を祈念するとともに日台の友好親善の絆を深めた。

第18次訪問団には福岡県を中心に九州・沖縄各県をはじめ千葉県や新潟県、愛知県、静岡県など国内各地からの参加者と台湾からの参加者を含め50人が参加、台湾各地を訪問する。

午後4時から始まった結団式では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉唱に続き、先の大戦で亡くなられた原台湾人元日本兵軍人軍属並びに慰霊訪問事業に尽力し、志半ばで亡くなられた方に対して黙祷を捧げた後、結団式に先立ち戎義俊處長の記念卓話「台湾の歴史教育と日台関係」が行われた。

戎處長は、台湾と日本の相互往来者数が昨年542万人に達したこと、李登輝元台湾總統が新しい歴史教科書「認識台湾」を編纂し、台湾の民主化と教育改革を協力に推し進めた結果、台湾人のアイデンティティが形成され、日本統治時代が正しく評価されるようになったこと、今年5月、蔡英文氏が台湾史上初の女性總統に就任し、台湾は今、日本の明治維新のような変革の時期にあることなどを語り、最後に「台湾には、日本が今こそ学ぶべき“正しい日本史”がある。台湾を訪問され、日本の正しい歴史を学び、自信と誇りを取り戻し、アジア地域の安定と



平和を担う真のリーダーになって戴きたい」と、日本にエールを送った。

台湾の歴史教育は、終戦から李登輝總統が就任するまでは、中国5000年の歴史ばかりで、台湾の歴史については何も触れていなかった。新しい歴史教科書「認識台湾」では「台湾は中国の属国」「台湾は辺境」であるという中国に重きを置いた教育から脱却し、台湾を地図の中心に据え、台湾の歴史と地理を教え、民主化と教育改革を強力に推し進めた。国民党の馬英九政権の敗北に大きな影響を与えた「ひまわり学生運動」はその産物であり、台湾人としてのアイデンティティが形成された。台湾で達成された民主改革は、数千年来の封建思想と社会体制を打破したもので、新台湾人として団結し、台湾という運命共同体の絆の強化を呼びかけた。

「認識台湾」は、客觀的事実として日本統治時代に日本人が遺したものを記している。歴史的事実を直視したおかげで日台関係はこじれず、日本統治時代が正しく評価されるようになった。日台が親密になったのも李登輝政権12年間の歴史教育の

賜物だと結んだ。

次いで、結団式に移り、主催者を代表して小菅団長が挨拶した。

「李登輝總統時代に『認識台湾』という新しい歴史教科書が編纂され、公教育に導入されたことで、台湾の人たちは日本の領台時代にまともに向き合い、日本統治時代が正しく評価されるようになった。これに対し日本は『認識日本』で応えなければならない。その具体的担い手が第18次の慰霊訪問団に参加して下さる皆さんだと思っている。団員の方が日本を正しく知って台湾に向き合う形で訪台することによって台湾の価値、日本の価値が上がり、先入観なしで真心をベースにした交流ができるようになる。新政権の下、初めて実行する旅だが、多くの成果を勝ち取って帰国して欲しい」と締め括った。

休憩を挟んで壮行会が戎處長ご夫妻をはじめ台北駐福岡經濟文化辦事處處長、横尾秋洋・筑紫野市議会議員、津田信太郎・福岡市議会議員らの来賓を迎え開催された。

来賓を代表して挨拶にたった津

田氏は今年5月に行なわれた蔡英文氏の総統就任式に、福岡市議会日台友好議員連盟の一員として参列し、大変貴重な経験をしたことを語り、日本人の参列者が一番多かったのは、小菅団長が率いる慰霊訪問団をはじめ日本全国の友好団体が台湾と地道な交流を重ねてきた成果ではないかと協調した。そして「福岡市と台湾が心と心の交流をさらに深め、真の交流ができるよう微力ながら尽くしていきたい」と決意を述べた。

続いて訪問団の原田種雄氏が、台湾から茨城県水戸市に里帰した飛虎將軍像について特別報告を行った。その後、錦慧流大師範の錦慧岳泉さんによる祝舞「松扇の舞」が舞われた。

壮行会は、和やかな雰囲気の中で進み、戎處長や辦事處の領事、小菅団長らを交え本間雅晴中將が作詞した「台湾派遣軍の歌」の大合唱が会場を巻き込んで賑やかに繰り広げられ、壮行会は最高潮に達した。

訪問団理事の木村秀人氏の万歳三唱、横尾秋洋筑紫野市議会議員の閉会のことばで締めとなった。

壮行会は、台湾への熱い思いを語り合い日台の交流を深め、台湾への旅立ちに向け力強い応援となった。

第18次となる台湾への「親善友好慰霊訪問の旅」の帰朝報告会・新年会は平成29年1月21日、福岡市天神の平和楼本店で開催され、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長夫妻をはじめ、来賓、慰霊訪問の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら70人が参集し、訪問団員の無事帰国を祝うとともに日台の親善友好を深めた。

帰朝報告会に先立ち、台北駐福岡経済文化辦事處の戎義俊處長が

「蔡英文新政権をめぐる日台関係」と題した記念講話を行った。

戎處長は、記念講話の中で、昨年5月、国民の圧倒的支持を受け、台湾處史上初めて女性総統として就任した。「蔡総統の就任後中国は、蔡氏が認めていない『一つの中国』の受け入れを求め、正式に中台交流を停止、国際民間航空機関(ICA)総会などの国際的な会議への出席を妨害、台湾と外交関係のある国に断交を迫るなど圧力を深めている。台湾の働きかけで実現した米大統領就任直前のトランプ氏との電話会談は行き詰る中台関係の打開を狙ったものだった。

日本の友人の皆さんには、蔡英文政権が内外厳しい試練に直面していることを認識し、各方面からの台湾サポートをして戴きたい」と語った。

第二部の帰朝報告会では、主催者を代表して団長の小菅氏が挨拶、まず、戎處長の講話について「台湾人の希望、悲願を日本人としてどうしたら達成出来るのか、大きな宿題を与えられたのではないかな。皆さんはそれぞれの与えられた立場で處長のメッセージを具現化する何らかの対応をして戴ければとおもいます」という感想を述べ、全員無事に帰国できたことを報告、出席者に謝辞を述べた。次いでトランプ・米国大統領の発言に触れ、どの大統領も日本の首相も言ってこなかった「一つの中国にこだわらない」という発言には感動したと語った。

小菅氏は「中国との距離の取り方は本当に難しいものがある。全く無視するわけにもいかない。観光もそうだが経済構造でがっちり結びついている。難しさもあるが、南京問題、尖閣諸島問題など皆さんが置かれた環境の中で一つ一つ意思表示していくことが大切だ」と強調した。

最後に同氏は慰霊訪問の最大の目的について、「忘れられた『日本語世代』の人たちに心を寄せることであり、そうすることが日本のために志願して戦場に赴き、戦死された人たちの供養に直結する」と語り、台湾に生存する親日的な「日本語世代」の人たちのことを忘れないように呼びかけた。

団長挨拶後、海明禅寺での身の引き締まる慰霊式など感動の連続であった第18次の慰霊訪問の旅の帰朝報告を行い、日本と台湾の真に強固な友好関係を築きあげていくために、第19次の慰霊訪問の旅への一人でも多くの参加を呼びかけた。

次いで訪問団東京支部長の藤田達男氏が顧問に、後任の支部長に沼田真清氏がそれぞれ就任、小菅団長から委嘱状が交付された。

その後開かれた新年会では、東旭秀さんによる筑前琵琶「那須与一」、日本舞踊錦慧流家元の錦慧岳泉さんによる祝舞「富士」が披露され、新春らしい雰囲気が盛り上がったところで乾杯、歓談に移った。慰霊訪問の旅の思い出話に花が咲く中、元警察官の根之本昭憲氏と東京支部長を委嘱された沼田真清氏が団員感想発表を行なった。

根之本氏は台湾で殉職した森川清次郎巡査を祀る富安宮での森川巡査の木造の御神体に感動した体験。沼田氏は、軍隊の所属部隊で一人生き残った経験を持つ高齢の父親を慰霊訪問の旅に誘い、親孝行が出来た話しをし、参加者を感動させた。その後、小菅団長が台湾からの留学生の6人を紹介、台湾歌謡や軍歌の合唱で日台交流の輪が広がった。訪問団副団長の木村秀人氏の万歳三唱、沖縄支部長の富原浩氏の第19次へ向けた閉会のことばで中締めとなった。

日台の魂の交流 第14回台湾特別講演会

日台の魂の交流 台湾維新元年

『台湾総統選(戦)が切り拓く世界新秩序』

ー日本・米国・台湾の新しい展開ー

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施されており、2部構成で第1部は恒例となった文明史家の黄文雄先生による基調講演、「台総統選(戦)が切り拓く世界新秩序ー日本・米国・台湾の新しい展開」。第2部は、昨年に続きパネルディスカッションが行われ、「戦後体制から躍り出た台湾人の台湾ー私たちはどう向き合うべきか」をテーマに小菅団長が司会、黄文雄先生、施光恒先生、柳原憲一先生の3氏による討論が行われた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、「生命の絆」唱和された。

厳粛な雰囲気の中、主宰者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立った。小菅団長は、出席者、来賓に祝辞を述べた後、台湾特別講演会の意義について語った。

「台湾は非常に親日的な国であり、その淵源は李登輝元総統が日本統治時代のことを正しく教育されたことによる。私たちは台湾に行くことによって、台湾を知り、そのことによって日本統治時代の明治・大正時代の日本、台湾に遺された日本の心を知ることが出来る。日本のために戦死された台湾の人たちを顕彰する魂の交流を続けることで、この日本をどう立て直していくのか日本人としての使命を自覚できるようになる。



次いで来賓を代表して戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長が挨拶に立った。

戎處長は、まず4月に発生した熊本地震の被災者にお見舞いの言葉を述べ、犠牲になられた方に哀悼の意を表した。さらに日台関係について次のように述べた。

「民進党の蔡政権は、台日関係を非常に重視しており、台湾と日本はこれまでの良好な関係の基礎の上に立ち、一層の前進と発展をすることができる。そして台湾と慰霊訪問団との交流もより一層発展が期待できると私は確信している。台湾と日本は、日本精神を持ち合わせている。日台両国は目に見えない強い命の絆で結ばれているからこそ台湾は世界一の親日国になった。日本の皆さんは、特に若い方に日本精神を継承され、大事にされ、さらに輝い

その後講演に移り、第1部は文明史家の黄文雄先生が講師を務め、「台総統選(戦)が切り拓く世界新秩序ー日本・米国・台湾の新しい展開」と題して講演。第2部では「戦後体制から躍り出た台湾人の台湾ー私たちはどう向き合うべきか」をテーマに、訪問団の小菅団長が司会を務め、パネリストに黄文雄氏、九州大学大学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会前会長の柳原憲一氏の3氏を招きパネルディスカッションが行われた。

講演会終了後、講師の黄文雄氏や台湾から参加した台湾支部事務局長の林家瑋さん、留学生らを囲み、交流会が開かれ、日台の親善友好を深めるとともに、第18次の慰霊訪問団への参加の気運が大いに盛り上がった。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

黄氏は、台湾の総統選挙でなぜ馬英九氏を支持する中国が負け、蔡英文政権が誕生したのか、台湾と中国の対立の歴史的な宿命と、ネット世代の登場によって変貌する21世紀の主権国家としての台湾の道を、世界の動向を絡め次のように講演した。

民意が天意を上回る時

日中国交正常化の時に日本政府は建前上「一つの中国」を認め、台湾と断交した。例えば、台北駐福岡経済文化辦事處は本来なら領事館なのだが、今はそうになっていない。しかし、このような状況は私の体験からして変えられる。台湾の外務省の在外公館が、領事館或いは大使館まで昇格できなくともある程度の格上げは可能だ。

日本を変えようとする場合、一部の人間だけでは無理だが、民衆が力を合わせて日本政府にプッシュしていかなければ世の中は変わらない。

台湾社会の力学構造分析

台湾社会の根本的な構造を分析しなければ台湾のこれからについてはなかなか分からない。

台湾は言語から見ても多元的文化社会で、外から入ってきた人間(国民党)が70年体制を作って支配していた。しかし、ネット世代の台頭とともにその構造は徐々に変化している。台湾の政財界はアメリカの大学出身者が多いが、日本の大学出身者も増えてきて変化してきている。

台湾と中国との対立の歴史的宿命

最近、中国の人民日報が、台湾と中国は「生命共同体」と言っている

が不愉快だ。台湾の黒潮文明の層と縄文文明は密接な関係にあり、1万5千年から2万年前は台湾、沖縄、九州は陸続きで同じ文化圏だった。台湾と日本は大変深い共通の文化層である。またオランダ軍を打ち払い、台湾の鄭氏政権の祖となった日本人を母に持つ鄭成功も日本との関係が深い。

台湾は、長い歴史の中から生れた多元的、多面的社会で、そのような社会は民主主義が一番ふさわしい。中国の専制政治とは合わないのは必然的だ。台湾と中国が一緒になる時代は短く、常に対立してきた。政治、経済、文化からあらゆる分野で対立している。

なぜ中国が台湾の選挙に負けたのか

中国にも辛亥革命後選挙の制度はあった。しかし、共通語がなく、人口が多く、政党が多すぎて空中分解してしまった。

馬英九前総統が当選したのは中国政府の支持とアメリカ、日本の民主党政権の支持があったからだ。結果的に台湾財界も支持した。

負けた最大の理由は、利用効果が無くなったということと、ネット世代が登場したことだ。

アジア最後の華僑王国の崩壊が意味するもの

台湾の選挙は、単なる政権交代ではなく、アジア最後の華僑王国の崩壊だといえる。東南アジアの独立運動はまず華僑からスタートする。華僑は西洋植民地の敵だった。東南アジア独立の一つのパターンだ。台湾は70年体制の最後の華僑王国と思える。これが消えた後は世の



中どう変わるか、崩壊するのではないかと思える。

蔡英文新総統の生い立ち、志と課題

蔡英文女史の祖父は客家(ハッカ)の旧家出身、祖母は原住民でパイワン族の末裔と言われ、父親は枋山郷出身の豪商だった。

蔡総統は意志が強い方で考え方は馬前総統とは正反対だ。家族全員の反対を押し切って政界入りした。蔡総統は選挙戦では台湾と中国の関係は現状維持、内政問題では変化を唱えた。

年金問題、巨額の財政赤字を抱え、これをどうクリアしていくのかが最大の課題といえる。中国の経済も危機に直面しており、台湾や日本にもその影響は避けられない。経済が不振になると国の予算も伸びない。もう一つ心配なのは、アメリカの大統領選でトランプ氏が健闘していることだ。

21世紀の主権国家としての台湾の道

主権国家としての道は、台湾自身で決められることではなく、アメリカ、中国、世界全体の動きが絡んでくる。台湾のメディアに関しては殆ど中国の主張だ。新聞は事実上1紙を除き殆ど中国資本で占められている。そのため台湾の新聞を読むだけでは台湾の事情を知るのは難しい。

21世紀の世界の新たな対立軸

中国はこれから海洋強国を目指す。偉大なる中華民族の復興と言っているが、このような言い方は他国にはない。中華民族だけが絶対という考え方で非常に自己中心的だ。“中国の夢”と現実とは全く逆だ。中国が唱える核心的利益と普遍的な価値は対立する。中国の将来、世界の将来は対立の軸から見れば分かるのではない。台湾もその流れの中でどのように選択していくのか、問題はここにある。

ネット世代が創る世界新秩序

ネット世代にはどのような特徴があるかといえば、私は鈴木大拙が著した「日本の霊性」という書物の中の思想に思い至る。思想、エネルギーは、全て大地に根を下ろして本物になるというようなことを唱えている。全てをネット世代に期待する訳ではないが、ネット世代が大地に根を下ろして主流になり、台頭するとなると今までの延長でものごとを考えることは出来なくなるだろう。

黄文雄氏は講演の締め括りとして日台の魂と心の交流について語った。

本日の式典で唱和した「日台の魂の絆死守せむと 吾 日本の一角に立つ」という言葉は、永年魂と心の問題を探ってきた私には、非常に考えさせられる言葉だ。慰霊訪問団は台湾と日本の魂と心の交流を大切にしている。日本人は3代前の祖先は共通の祖先となると考えている。共通の祖先を持つということは大事なことだ。

現在の台湾は国家も、社会も文化も民族もアイデンティティが一つにならないのはそこに原因がある。日本人の魂と心の考え方は他の国にない独自の精神的伝統であり、「吾 日本の一角に立つ」ということを皆さんと一緒に努力すれば、何とか世界に影響をあたえられるのではないかと特別に提起したい。

続いて行われた第2部では小菅団長が進行役を務め、パネラーの黄文雄、施光恒、柳原憲一の3氏が登壇、「戦後体制から躍り出た台湾人の台湾—私たちはどう向き合うべきか」をテーマに、パネルディスカッションが行なわれた。

来賓をはじめ、訪問団の役員をはじめ台湾に関心を持つ市民まで350人が詰めかけ、熱心に耳を傾

けた。講演終了後、訪問団理事の木村秀人氏の万歳三唱、原田泰宏氏の閉会の辞で特別講演会を終了、全員揃っての記念撮影となった。

講演会終了後、午後5時すぎから同会場で、講師の黄文雄氏や台湾から参加した林家瑋台湾支部事務局長、留学生らを囲み交流会が開かれた。

東京支部長の藤田達男氏が開会のことばを述べた後、小菅団長の挨拶に続き、来賓の祝辞があり、その後、台湾人戦没者、日本神に捧げる慰霊祭事として九州大学男声合唱団・コールアカデミーの力強い合唱、錦慧流大師範の錦慧岳泉さんによる祝舞が奉納された。

台湾特別講演会実行委員会を代表して山口勝彦氏の乾杯の音頭で歓談に移り、出席者は台湾への熱い思いを語り合い、賑わった。

津田信太郎・福岡市議会議員が慰霊訪問団のさらなる隆盛と日台友好の深化を願い博多手一本で締め、慰霊訪問団の顧問でもある横尾秋洋・筑紫野市議会議員が閉会のことばを述べ閉会となった。



50年に及ぶ日本統治が半世紀以上経った今日に至るまで、脈々と生き続ける台湾。
この「生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された私たち世代の崇高な使命です。

日台の魂の交流 南京攻略80年 第15回 台湾特別講演会

第1部 基調講演

黄 文雄 先生

「一つの中国」の否定と グローバリズムの挫折

— 日本は台湾との関係をいかに構築すべきか —

第2部

パネルディスカッション

強力な台湾アイデンティティ を持つ天然独

— 私たちの代で作ろう、世界も羨む二国間関係を —



こう ぶん ゆう
黄 文雄 先生
(文明史家／
和漢両棲ノンフィクション作家)

【略歴】昭和13年(1938)台湾高雄県岡山鎮生まれ。昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院、政治経済学研究所西洋経済史学修士。平成29年3月まで、拓殖大学日本文化研究所客員教授。



せ て る ひさ
施 光恒 先生
(九州大学大学院准教授)

【略歴】昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年(1989)福岡県立修猷館高等学校卒業。平成5年(1993)慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。現在、九州大学大学院比較社会文化研究院准教授。



やなぎ はら けん いち
柳原 憲一 先生
(西日本台湾学友会元会長)

【略歴】昭和32年(1957)台湾彰化県和美鎮生まれ。昭和59年(1984)来日。平成5年(1993)九州大学医学部卒業。九州大学医学部附属病院医員。現在、医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平埔族研究家。

■日時：平成29年**6月18日(日)** 開場12:30 開会13:00

■会場：ソラリア西鉄ホテル 8階「彩雲」 福岡県福岡市中央区天神2丁目2-43
TEL(092)752-5555

講演会 / 13:00~17:00

会費：1,000円
定員：300名

交流会 / 17:15~19:00

会費：5,000円(要予約)
定員：150名(全席円卓着席)

講演会終了後に講師の先生や
台湾の皆様を囲んで和やかに
交流会を催します

〈振込先〉

- 福岡銀行 県庁内支店
普通預金 1007307
日華(台)親善友好慰霊訪問団
- ゆうちょ銀行 記号01750-1
番 号 144572
日華(台)親善友好慰霊訪問団

主催：日華(台)親善友好慰霊訪問団(平成11年結成)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL092-721-0101 担当 原田・池田

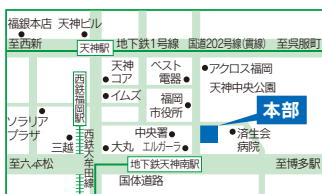
特別協賛：台北駐福岡経済文化辦事處／九州不動産専門学院／九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会)／山口県日台交流協会／松俵建設／関家具／栄電舎／中部鋼材／エースコーポレーション／濱崎理想瓦製造所／新亜旅行社／日本語アカデミー日本語研究所

協 賛：福岡教育連盟／美祢市観光商工部／HAS／国際不動産鑑定所／石村萬盛堂／悠悠／大道印刷
後 援：産経新聞九州総局／(公財)オイスカ西日本研修センター／福岡市議会日台友好議員連盟／日台友好筑紫野市議会議員連盟／日本会議地方議員連盟／日本会議福岡／台湾在日福岡留学生会／福岡縣神社廳／福岡縣護国神社／英霊にこたえる会福岡県本部／福岡県海友会／(一社)福岡県郷友連盟／(公財)水交会福岡支部／(公財)海原会／甲飛喇叭隊第11分隊／大野城市国際交流協会／福岡県中華總會／九州台日文化交流協会／日台交流をすすめる会／山口県日台文化経済交流会／福岡県モラロジー協議会／日本協議会福岡県支部／日本青年協議会／教育研究会未来／スタジオオ日本日曜討論番組を支える会／日本時事評論社／エバー航空／紅乙女酒造／フクニ住宅新聞／東海新報社／岩屋城史の会

現地協力：台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 恆春・潮音寺 台南・海尾朝皇宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟化宮 樹林・海明禪寺 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園) 高雄・臺灣前國軍退役軍人暨遺族協會 <慰霊祭主催団体>台中・台灣台日海交會 <交流団体>台北・台日文化經濟協會會 台中・台灣海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

表敬訪問：台北・中華民國總統府 台北・中華民國外交部 高雄・高雄市政府 台中・臺中市政府 台南・臺南市政府 台北・國民革命忠烈祠

企画運営：第15回台湾特別講演会実行委員会



日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

台湾支部(支部長:黄明山)
高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局
台北市信義區信義路五段5號
台北世界貿易中心5樓D-26室
日本美禰市台北觀光・交流事務所気付
TEL(09)7845-8470

URL nippon-taiwan.org

Eメール taiwan@l-mate.net

